

令和7年度使用中学校用教科用図書

# 調査員会調査・研究報告書

令和6年7月

尾道市教科用図書調査員会

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	国 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>① 1870語の言葉のリストが用意され、意味・用例を知ることができ、語彙力につなげることができる。</p> <p>② 情報と情報との関係の捉え方や、比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方を、生徒にとって身近な例を題材にして、体系的に学ぶことができるようになっている。</p> <p>③ 「読書と情報」「読書への招待」「読書活動」「読書案内」と、生徒が自ら本に手を伸ばし、これからの時代に必要な情報活用能力を育みながら、生徒が興味をもって取り組める活動が設定してある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④ 「話すこと・聞くこと」において、社会生活を話題にした話し合い活動の単元が設定されている。合意形成に関する説明や話し合いの具体例が書かれており、生徒が見通しをもって活動に取り組むことができる。</p> <p>⑤ 説明的な文章において、本文に意見の根拠となる図表を見ることを促す表記がある。「てびき」により文章と図表の関連が促されており、文章と図を関連付けた学習を進めることができる。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥ 問題解決的な言語活動が多く設けられ、生徒どうしが助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、互いの考えを生かして結論をまとめたりするなど、協働して学びを深められるように工夫されている。</p> <p>⑦ 教材の冒頭に「生徒の問いかけ」を示している。教材の終わりに学習の「てびき」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>⑧ 教材文の「見通す」に目標、生徒目線で書かれた「問いかけ」が示され、「言葉の力」を用いて学習を進める。「振り返る」には、目標に対する振り返りの指示になっており、学習の定着を確認しやすい。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑨ 「読むこと」の教材と「書くこと」の教材、または「話すこと・聞くこと」の教材がセットで単元構成されているため、異なる領域を併せ</p>

	<p>た指導がしやすく、特に「書くこと」の力を伸ばしやすい。</p> <p>⑩各単元は、「読むこと」の教材と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」のいずれかの領域の教材及び「知識及び技能」教材で構成されているため、基本的な知識と技能を定着させながら読む力を育める。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑪「文法解説」と「資料編」に分かれており、各学年で学ぶ文法事項や言語活動の情報がまとめられている。既習項目の学習に役立てることができる。</p> <p>⑫「話すこと・聞くこと」の動画や古文の朗読動画がある。ゲーム・クイズ形式の文法問題があり、生徒が意欲的に取り組める。テーマごとに語彙を検索でき、意味や用例を確認しながら語彙力を高められる。</p>
三省堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「言葉発見」、「漢字のしくみ」、「文法の窓」、「文法のまとめ」を系統立てて配列することで、言語を習得し、実際に活用していくことがスムーズにできるようにしてある。</p> <p>②多様な情報を関連付けながら、現代社会の課題について考えを深められるよう工夫しており、内容が難易度に応じて整理されているため、系統的に学習することができる。</p> <p>③各学年の中心的な古典教材、資料編「読書の広場」には、ビジュアル資料を配置しており、作品全体への理解や日本の古典芸能について、理解を深めることができる。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「話す・聞く」において、学校生活を話題にしたグループディスカッションの単元が設定されている。話し合いのコツが1年次から系統的かつ具体的に書かれており、見通しをもって段階的に学びを深められる。</p> <p>⑤説明的な文章において、本文の内容に関連することを図表で示している。「学びの道しるべ」、読み方を解説したページや動画により、図と文章の関連付け方を理解したうえで、学習を進めることができる。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥生徒の日常生活や社会生活の課題を取り入れて、学習で身に付けた力が実際の場で生かされるように、話題・題材、知識・技能、活動の具体化を図っている。</p> <p>⑦教材の冒頭に学習目標を示している。教材の終わりに学習の「学びの道しるべ」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p>

	<p>⑧教材冒頭で目標を示し、「思考の方法」を用いて学習を進めるようになっている。教材末の「学びを振り返る」では、目標で示したキーワードを振り返りの視点とし、学習の定着が図れるようにしている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑨「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の複数の領域がセットで単元構成されているため、異なる領域を併せた指導がしやすく、幅広い学習活動で指導の工夫がしやすい。</p> <p>⑩各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の複数の領域からなる教材と「知識及び技能」教材で構成されているため、基本的な知識・技能を定着させながら各領域の力の向上を目指しやすい。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑪「文法のまとめ」「資料編（読書の広場）（社会生活に生かす）（参考資料）」がある。全学年共通の「社会生活に生かす」には言語活動に役立つ情報がまとめられており、表現活動の参考にすることができる。</p> <p>⑫「話すこと・聞くこと」の活動動画や作文例等を見ることができる。教材に応じたワークシートや、漢字と文法に関するデジタルドリルがあり、生徒が自主的に学習に取り組むことができる。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「言葉の自習室」として「理解に役立つ言葉」、「表現に役立つ言葉」と、文章を読む手がかりになる言葉が一覧となって確認できるようにしてあり、語彙力につなげることができる。</p> <p>②各学年とも、本編の情報活用に係る単元、1年「情報を得る」、2年「情報を捉える」、3年「情報を共有する」を設定し、系統的に情報を扱う学習ができる。</p> <p>③各学年とも、各単元末と資料編に「広がる本の世界」として書籍紹介を掲載している。資料編の「言葉の自習室」として、読書に関わる教材が複数まとめて掲載されており、読書の幅を広げることができる。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「話す・聞く」において、社会問題と学校を関連付けた話し合い活動をする単元が設定されている。合意形成のための話し合いのポイントや話し合いの具体例があり、生徒がイメージをもって学習できる。</p> <p>⑤説明的な文章において、内容に関連する図表が示され、本文にも対応する図表が書かれている。よって、対応する図がわかりやすく、見通しをもって学習を進めることができる。</p>

	<p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥生活や社会におけるさまざまな課題に対して、他者との協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい解決を目指す態度と能力を育成できるよう、配慮している。</p> <p>⑦教材の冒頭に学習目標を示している。教材の終わりに「みちしるべ」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>⑧「振り返り」は「知識・技能」「思考・判断・表現」の振り返りと、「主体的に学習に取り組む態度」の振り返りからなる。目標で示した項目を「学びナビ」を用いて学習し、「振り返り」で確認できる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑨「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の複数の領域がセットで単元構成されているため、異なる領域を併せた指導がしやすく、幅広い学習活動で指導の工夫がしやすい。</p> <p>⑩各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域と「知識及び技能」の内、複数の教材で構成されているため、基本的な知識・技能を定着させながら各領域の力の向上を目指しやすい。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑪「言語と文法」「言葉の自習室」に分かれている。「言葉の自習室」には語彙集とテーマ集があり、表現活動の参考にできる。</p> <p>⑫二次元コードのある教材では、教材の解説・関連資料を見ることができ、単元の学習の参考にできる。</p>
光 村	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①資料として「語彙ブック」があり、描写・言動・思考・コラムという分類で学年に応じた語句が整理されている。また、デジタルコンテンツに「言葉の宝箱（小学校）」があり、語彙力を鍛えようとしている。</p> <p>②「情報整理のレッスン」・「思考のレッスン」と段階的に情報の整理の仕方が学習できるように、問いの内容に関連性をもたせている。</p> <p>③「読書活動」「読書」「読書案内」「コラム」と、生徒が本を身近に感じられる活動の紹介、同世代の登場人物を扱う著名人の本紹介があり、テーマに応じた本が選べるよう段階的に取り上げられている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「話す・聞く」において、学校生活を話題に会議を開く単元が設定されている。合意形成の説明や話し合い例にポイントが示されており、身近な題材をもとに、見通しをもって話し合い活動を行うことができる。</p>

⑤説明的な文章において、内容に関連する図表が示され、本文にも対応する図表が書かれているため、対応する図を理解して学習に取り組むことができる。

### 第3の観点

⑥持続可能な社会の創り手を育成するために、SDGsを題材にした特設教材「情報×SDGs」を設け、今日的な諸課題を題材として幅広く取り上げている。

⑦教材の冒頭に「学習活動」と学習目標を示し、教材の終わりに「学びへの扉」があり、見通しをもって学習に取り組むことができる。

⑧「学びのカギ」を用いて学習を進め、「振り返る」では、新しい評価（3観点）に対応するようになっており、学びの定着が確認しやすい。

### 第4の観点

⑨「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の複数の領域がセットで単元構成されているため、異なる領域を併せた指導がしやすく、幅広い学習活動で指導の工夫がしやすい。

⑩各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域と「知識及び技能」の内、複数の領域で構成されているため、基本的な知識・技能を定着させながら各領域の力の向上を目指しやすい。

### 第5の観点

⑪「文法」「資料編」以外の「国語の力試し」には、身に付けた力を活用して解く問題がある。また、「語彙ブック」は、生徒の語彙を豊かにし、表現の幅を広げることに役立つ。

⑫教材ごとの二次元コードで動画や関連資料を見ることができるほか、CBT（コンピュータを使用した試験）形式の問題があり、解答のテキスト入力・自己採点ができ、生徒の学習に役立つ。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	書 写
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①毛筆と硬筆における正しい姿勢を写真で示しているため、正しい姿勢を視覚的に理解できる。</p> <p>②筆脈を点線で示している。また、朱墨で筆使いを示し、ポイントに、四つの動きを示すアイコンで筆使いを示しているため、行書の特徴を確認しながら学習を進めることができる。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が実際に書き込めるシートを作り、場面を想定して書く活動ができるため、実生活と関連付けて考えやすい。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>④防災訓練など、身に付けた力を地域社会や生活など様々な場面で生かそうとする学習材の工夫がある。</p> <p>⑤「書写の学習の進め方」では、基本となる学習の流れを示しているため、学習に見通しがもてる。</p> <p>⑥「振り返ろう」という形で目標と対応する投げかけで学習者に示しているため、自分事として学習を進められる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦小学校の学習の振り返りから始まり、姿勢や筆記具の扱い方、楷書、行書の学習を経ているため、効果的に書く学習ができる配列になっている。</p> <p>⑧明朝体の始まりやひらがなの成り立ち、文字の変遷について触れ、文字の奥深さを楽しむ教材の工夫がある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨該当箇所二次元コードからコンテンツにアクセスできる書写テストに回答でき、定着度を自分で確認できる。</p>
三省堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①正面からの写真と横から撮影した写真を掲載しており、正しい姿勢が視覚的に理解できる。</p> <p>②第1学年「行書 点画の形や方向の変化」において、筆脈を青の矢印や点線で示し、言葉で解説している。また、行書の文字（朱墨）と楷書の文字（黒字）を並べて示しているため、視覚的に理解しやすい。</p>

	<p><b>第2の観点</b></p> <p>③手紙の構成を、手書きの場合とパソコンで書くときの構成も踏まえて示しているのので、実生活と関連付けて考えやすい。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>④グループ新聞や情報誌を作る単元があり、協働的に活動することができる。</p> <p>⑤楷書と行書を比較することで、目標にせまる手立てを用意している。</p> <p>⑥振り返りの視点を「～できましたか」と投げかける形で提示し、学んだことを自分の言葉で書くことができる工夫がある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦姿勢と構え方を学習し、楷書、楷書と仮名、行書の学習を経て文字文化の豊かさについて学習するという配列になっているため、見通しがもてる。</p> <p>⑧ひらがなの発生や文字の変遷、現代まで受け継がれてきた文字の歴史や文化に触れ、文字の役割などを考えるきっかけづくりがある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、関連する資料の概要を確認することができる。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①ボールペンの持ち方の理解を助ける写真が掲載されており、視覚的に理解できる。</p> <p>②朱墨で筆使いを示し、ポイントとなるところに、「連続」や「変化」を示すアイコンと写真で筆使いを示し、視覚的に理解できる。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③どのような点に注意すると良いか、話し合うための観点が示されているため、学習の見通しがもてる。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>④校庭の植物を観察してレポートにまとめるなど、学習したことを学校生活と関連付けた単元が設定してあるため、実生活で生かそうとする力がつく。</p> <p>⑤「考えよう」という項目で注意点を疑問の形で示すとともに、焦点化して学習課題を取り上げているため、ポイントを縛りやすい。</p> <p>⑥目標と同じページ内に振り返りの項目が示され、(○と△)で振り返ることができ、自己評価しやすい。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦楷書、楷書と仮名の調和、行書、行書と仮名の調和の学習を経て学習</p>



	<p>活動や日常生活に生かして書く学習という配列になっているため、学習のつながりを感じながら学習を進めることができる。</p> <p>⑧仮名の成立や文字の変遷について、古代から現代に至るまでの「書くこと」の変遷に興味・関心がもてる教材の工夫がある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、硬筆と毛筆の違いが分かりやすく学習できる。</p>
<p>光 村</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①SDGsと書写の関連付けがあり、SDGsの視点で考えることができる。また、左利きの人の用具の準備写真が掲載されており、左利きの生徒への配慮もある。</p> <p>②半紙原寸大の教材文字の横に、朱墨と薄墨で筆使いを示しているため、行書の特徴が理解しやすい。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③「考えよう」では、目的や場面に応じて楷書と行書の使い分けや、フォントなどの文字を使い分ける必要があることを学び、実生活に生かそうとする力を養うことができる。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>④国語や総合的な学習の時間との関連付けを明確に示しており、学習に必然性が生まれている。</p> <p>⑤行書の特徴を四つに整理し、「行書スイッチ」のイラストを用いることや、筆使いを擬音語で示すことで、文字の書き方への理解を深めるとともに書く楽しさを感じることができる。</p> <p>⑥楷書と比較した行書の違いを書き込ませるなど、学習者に気付きを促す課題がある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦楷書、行書の学習を経て、文字を使い分けることや日常に役立つ書式の学習という配列になっているため学習の見通しがもてる。また、書写ブックを活用して、書く力の定着を図ることができる。</p> <p>⑧伝統的な文字文化である「書き初め」に主体的に取り組むことができるようにしている。また、ユニバーサルデザインフォントについての教材があり、文字の使い分けについて理解しやすい。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、「文字マップ」や「SDGsについて」等、教科用図書に収録されていない関連資料を二次元コードで確認することができ、学習が広がる。</p>

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（地理的分野）
-----	------------

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと生徒の興味を引く副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を示しており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるとともに、予め何を理解すればよいか明確になっている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」が設けられており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。</p> <p>②「日本の諸地域」は「九州地方」「中国・四国地方」「近畿地方」「中部地方」「関東地方」「東北地方」「北海道地方」の7地域で構成し、いくつかの中核的な考察の仕方を基に地域的特色をとらえさせることとしている。</p> <p>③「世界の諸地域」は「アジア州」「ヨーロッパ州」「アフリカ州」「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」の6州で構成し、主題を設けてそれぞれの州の地域的特色を理解させることとしている。学習に必要な技能について学習する「スキル・アップ」コーナーを設けている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④巻頭に「地理を学ぶ5つのミカタ」を設定し「見方・考え方」として「位置や分布」「人と自然のかかわり」「場所」「結び付き」「地域」を示している。また、「世界の諸地域」の節ごとのまとめに、「見方・考え方」と資料を結びつけた「資料を活用する力をきたえよう」というページを設けている。</p> <p>⑤各単元末のまとめのページに、多面的・多角的に考察させるための探究的課題を設けている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥単元の導入に1ページを使用し、中核的な考察、地図やグラフ、写真、キャラクターの吹き出し、コラム、県章・シンボルを記載している。</p> <p>⑦単元の導入で1ページを使用し、探究課題や学習の流れを掲載することで、目標設定や問いの立て方についての手立てを示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧補足的教材や地域の事例に関する資料を巻頭ページに掲載している。</p> <p>⑨「日本で見られるさまざまな自然災害」「防災・減災に向けた取組と課題」に自然災害、防災及び減災に係る記載がある。本文の他に特設ページ</p>

	<p>を2ページ設けている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしている。また、円グラフや帯グラフには文字や数字を入れたり、複数のデータを掲載した折れ線グラフは、データごとに色を変えたりするなど、どのような生徒にとっても分かりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。</p> <p>②「日本の諸地域」は「九州地方」「中国・四国地方」「近畿地方」「中部地方」「関東地方」「東北地方」「北海道地方」の7地域で構成し、いくつかの中核的な考察の仕方を基に地域的特色を捉えさせることとしている。</p> <p>③「世界の諸地域」は「アジア州」「ヨーロッパ州」「アフリカ州」「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」の6州で構成し、主題を設けてそれぞれの州の地域的特色を理解させることとしている。学習に必要な技能について学習する「地理の技」コーナーを設けている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④巻頭に「地理の学習を始めるにあたって…」を設定し「見方・考え方」として「位置や広がり（分布）」「自然環境との関わり」「場所」「結びつき」「地域」を示している。</p> <p>⑤各単元末のまとめのページに、多面的・多角的に考察させるための学習課題が設けてある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥単元の導入に2ページを使用し、地図やグラフ、写真、キャラクターの吹き出しを記載している。</p> <p>⑦単元の1ページ目において、章の問い・学習課題・見方や考え方を掲載することで、目標設定や問いの立て方についての手立てを示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧単元の構成や学習の流れに関する資料を巻頭ページに掲載している。</p> <p>⑨「自然災害に向き合う」「災害から身を守るために」に、自然災害、防災及び減災に係る記載がある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツ</p>

	<p>にアクセスできる。</p> <p>⑩本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしている。</p>
帝 国	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。加えて章全体を通した問いも掲載しており、見開きの学習内容に係る問いだけでなく、生徒は、章全体の学習を通してどんな知識や技能を習得すればよいかを理解した上で、学びを進めることができるようになっている。また、ページ下部に「確認しよう」「説明しよう」が設けられており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。</p> <p>②「日本の諸地域」は「九州地方」「中国・四国地方」「近畿地方」「中部地方」「関東地方」「東北地方」「北海道地方」の7地域で構成し、いくつかの中核的な考察の仕方を基に地域的特色をとらえさせることとしている。</p> <p>③「世界の諸地域」は「アジア州」「ヨーロッパ州」「アフリカ州」「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」の6州で構成し、主題を設けてそれぞれの州の地域的特色を理解させることとしている。学習に必要な技能について学習する「技能をみがく」コーナーを設けている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④巻頭に「地理的な見方・考え方」を設定し「見方・考え方」として「位置や分布」「場所」「人間と自然との関わり」「他地域との結びつき」「地域の特徴」を示している。地理的な見方・考え方を働かせて自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりする特設ページ「アクティブ地理AL」を設けている。「見方・考え方」が予め示されていることにより、何を意識して考えればよいか、手掛かりにすることができ、かつ深い思考に結び付けることができる。</p> <p>⑤各単元末のまとめのページに、多面的・多角的に考察させる問いが設けられている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥単元の導入に3ページを使用し、イラスト、地図、写真、キャラクターと吹き出し、学習の見通しを記載している。</p> <p>⑦単元の導入で1ページを使用し、これまでの学習と地域のあり方の関係を図示し、2ページ目に章の問いを掲載することで、目標設定や問いの立て方についての手立てを示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧巻頭ページで、「地理的な見方・考え方」や、考えを整理する方法としての思考ツールとその活用方法を示しており、効率的かつ深く考えていくこ</p>

	<p>とができるようになっている。</p> <p>⑨「日本のさまざまな自然災害」「自然災害に対する備え」に自然災害、防災及び減災に係る記載がある。本文の他に特設ページを2ページ設けている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
日 文	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。学習課題から「見方・考え方」へつなげる表示があり、生徒の深い学びに結び付けることができる。また、学習課題については、右ページ下部の「確認」「表現」で振り返ることができる。</p> <p>②「日本の諸地域」は「九州地方」「中国・四国地方」「近畿地方」「中部地方」「関東地方」「東北地方」「北海道地方」の7地域で構成し、いくつかの中核的な考察の仕方を基に地域的特色をとらえさせることとしている。</p> <p>③「世界の諸地域」は「アジア州」「ヨーロッパ州」「アフリカ州」「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」の6州で構成し、主題を設けてそれぞれの州の地域的特色を理解させることとしている。学習に必要な技能について学習する「スキルUP」コーナーを設けている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④巻頭に「地理的な見方・考え方って？」を設定し「見方・考え方」として「位置や分布」「場所」「人と自然とのかかわり」「地域同士のつながり」「地域」を示している。</p> <p>⑤各単元末のまとめのページに、多面的・多角的に考察させる問いが設けられている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥単元の導入に2ページを使い、中核的な考察、キャラクターの吹き出し、写真、地図、グラフを記載している。</p> <p>⑦単元の導入で2ページを使用し、学習の内容・問い・学習の流れ・見方や考え方・小学校との関連等を掲載することで、生徒にとっては、探究的な学習活動をより主体的に行いやすく工夫されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧巻頭ページで、「地理的な見方・考え方」の解説を行っている。</p> <p>⑨「自然災害からみた日本の地域的特色と地域区分」「災害にそなえるために」「せまりくる巨大地震にそなえて」「ハザードマップを活用しよう」</p>

に、自然災害、防災及び減災に係る記載がある。

**第5の観点**

⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。

⑪本文ページのレイアウトを統一している。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（歴史的分野）
発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を示しており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、予め何を理解していればよいか明確になっている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」が設けられており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。</p> <p>②写真資料に「国宝」「世界遺産」「重要文化財」「世界の記憶」「無形文化遺産」のマーク表示をしている。特設ページ「現代に生きる神話」を掲載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載し、特設ページでは「歴史的な見方・考え方」に基づいた課題を示している。生徒は、どのような点に着目するとよいか考えながら学習を進めることができる。章のまとめでは「歴史的な見方・考え方」に基づいて思考ツールを活用しながら考えを深めていく課題が示している。</p> <p>⑤「歴史的な見方・考え方」に基づき節ごとに学習内容を整理した後、探究課題について文章でまとめさせている。思考ツールを紹介し、活用させる工夫がある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭4ページを導入に使っている。絵図やイラスト等の資料の読み取りや話し合い活動を通し、探究課題につながるよう構成されている。見開き右下に「探究のステップ」を設け、学習の見通しをもたせるようにしている。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習の流れの例を示し、テーマと問いの設定、調査、考察、まとめ、発表、振り返りのポイントや例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「もっと知りたい！」を、地域事例については特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、本文の学習と関連したテ</p>

	<p>マを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「ギリシャ・ローマの文明」、近代「イギリス・アメリカの革命」、現代「占領下の日本」「民主化と日本国憲法」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしている。また、円グラフや帯グラフには文字や数字を入れる、複数のデータを掲載した折れ線グラフは、データごとに色を変えるなど、どのような生徒にとっても分かりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。</p>
<p>教 出</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を示しており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、予め何を理解していればよいか明確になっている。また、ページ下部に「確認!」「表現!」が設けられており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。</p> <p>②写真資料に「世界遺産」「国宝」「重要文化財」のマーク表示をしている。特設ページ「歴史を探ろう」で神話・伝承等について記載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載し、章のまとめに「歴史的な見方・考え方」に基づいて考えを深めていく課題を示している。</p> <p>⑤様々な観点から学習内容を整理した後、「歴史的な見方・考え方」に基づいて時代の特色を整理している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭3ページを導入に使っている。絵図やイラスト等の資料の読み取りや問いに答えていくことで、章全体の問いにつながるよう構成されている。3ページ目の下に「学習の見通し」を設け、学習の見通しをもたせるようにしている。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習の流れを示し、情報収集、調査テーマの設定、調査、考察、まとめ、発表のポイントや例を示している。</p>



	<p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「歴史を探ろう」を、地域事例については特設ページ「身近な地域の歴史を調べよう」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「すべての道はローマに通ず」、近代「王は君臨すれども統治せず」「代表なくして課税なし」、現代「敗戦からの再出発」「平和国家を目指して」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしている。また、円グラフや帯グラフには文字や数字を入れる、複数のデータを掲載した折れ線グラフは、データごとに色を変えるなど、どのような生徒にとっても分かりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。</p>
帝 国	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」といった学習課題を示している。小単元全体を通した問いも掲載している。また、見開き右ページに「確認しよう」「説明しよう」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②写真資料に「世界遺産」「世界の記憶」「国宝」「重要文化財」のマーク表示がある。通常ページに「コラム」を設け、神話や伝承について記載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載し、章のまとめに「歴史的な見方・考え方」に基づいて考えを深めていく課題が示してある。</p> <p>⑤章の問いに対して学習を振り返り、自分の考えを文章にまとめさせている。節の問いが改めて示してある等、これまでに学んだ知識を統合しながら章を振り返ることができるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭1ページを導入に使っている。章の問いを示した上で予想を書</p>

	<p>かせている。また、ページ右下に、節の問いを示し、この章でどのようなことを学ぶか分かるようにしている。導入近くに当時の町や村落等を絵画にした「タイムトラベル」を設け、その時代がどのような時代であったか、大まかな特徴を予想させ、見通しをもって学習することができるようにしている。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習について、情報の収集、野外調査、聞き取り調査、年表・地図のつくり方、レポートのまとめ方、発表の仕方のポイントや例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「アクティブ歴史」「世界とのつながりを考えよう地図編」「世界とのつながりを考えようイラスト編」を、地域事例については特設ページ「歴史を探ろう」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「ギリシャとローマの政治と文明」、近代「市民革命の始まり」「人権思想からフランス革命へ」、現代「敗戦からの出発」「新時代に求められた憲法」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
山 川	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「なぜ」といった学習課題を示している。また、見開き右ページに「ステップアップ」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②写真資料に「世界遺産」「国宝」のマーク表示がある。巻頭に「日本の世界遺産」を地図とともに示している。通常ページに「コラム」を設け、神話や伝承について記載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④特になし。</p> <p>⑤章のまとめとして、様々な観点や立場から問いについての自分の考えを文章にまとめさせる工夫がある。</p>

	<p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭2ページを導入に使っている。章で学習する内容を日本史と世界史に分けて年表、歴史的事象の写真や絵図を示している。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習について、テーマの設定、調査、レポート作成と発表のポイントと例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「歴史へのアプローチ」「歴史を考えよう」を、地域事例については特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「地中海文明の発展」、近代「市民革命の時代」、現代「占領下の日本」「日本国憲法と民主化」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。掲載情報は多い。</p>
日 文	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと副題、「どのような」といった学習課題を示している。学習課題から「見方・考え方」へつなげる表示がある。また、見開き右ページに「確認」「表現」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②写真資料に「国宝」「世界遺産」のマーク表示がある。巻末の折込に「日本の世界遺産」を地図等とともに示している。特設ページ「歴史をほりさげる」で神話・伝承等について記載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載し、全ての見開きのタイトル下部に、そのページの学習で活用する「歴史的な見方・考え方」を示している。</p> <p>⑤様々な質問に沿って学習内容を整理した後、編の問いについて学習を振り返り、自分の考えを文章にまとめさせている。学習内容を整理する段階で活用する「見方・考え方」を示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p>

	<p>⑥編の冒頭4ページを導入に使っている。絵図や写真、年表や地図の読みとりを行っていくことで、編の問いにつながるよう構成されている。4ページ目の下に節の問いを示すことで、学習の見通しをもたせるようにしている。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習の全体像を示し、テーマの決定、課題の調査、考察とまとめのポイントと例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「歴史を掘り下げる」「チャレンジ歴史」を、地域事例については特設ページ「でかけよう！地域調べ」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「ギリシャ・ローマの文明」、近代「王政から議会制へ」「アメリカの独立とフランス革命」、現代「占領と改革の始まり」「平和で民主的な国家を目指して」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
自由社	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どんな」といった学習課題を示している。また、見開き右ページに「チャレンジ」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②写真資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」のマーク表示がある。巻頭に「日本の世界文化遺産」を地図等とともに示している。本文と特設ページ「もっと知りたい」で神話・伝承等について記載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④特になし。</p> <p>⑤「歴史用語ミニ辞典」「時代の流れを整理する問題」「時代比較の問題」「人物比較の問題」「ひとこと作文」「意見交換会」等のコーナーがある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭1ページを導入に使っている。2枚の絵図や写真を比較させ、</p>

	<p>章の学習への興味をもたせている。ページ下に、章の予告編「登場人物紹介コーナー」がある。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習について4つのテーマについてと、人物を通した歴史の調べ学習において2人の人物についてのまとめの例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「もっと知りたい」「調べ学習のページ」を、地域事例については特設ページ「調べ学習のページ」の中で、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「ギリシャ・ローマの文明」、近代「イギリスの市民革命とアメリカの独立」「啓蒙思想とフランス革命」、現代「占領下の日本」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩様々な資料が掲載されている。二次元コードは掲載されていない。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
育鵬社	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルを示し「どのような」といった学習課題を示している。また、見開き右ページに「確認」「探究」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②写真資料に「国宝」「世界遺産」のマーク表示がある。巻頭や巻末で世界遺産や国宝を地図等とともに示している。特設ページ「歴史ズームイン」で神話・伝承等について記載している。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、特設ページやコラムを設けて記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載し、特設ページでは「歴史的な見方・考え方」に基づいた課題を示している。</p> <p>⑤様々な質問に沿って学習内容を整理した後、「〇〇はどのような時代だったのか」といった問いを設定し、理由とともに説明をしている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭4ページを導入に使っている。イラスト年表である「歴史絵巻」と、図を読み取る「〇〇の世界へようこそ」で構成されている。章の問いと節の問いが4ページ目に示され、学習の見通しをもたせるようにしている。</p>

	<p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習について、テーマの決定、調査、発表のポイントを示した後、調査結果の2つの例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「歴史ズームイン」を、地域事例については特設ページ「地域の歴史を調べてみよう」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「ギリシャとローマの文明」、近代「イギリスの革命とアメリカの独立」「フランス革命」、現代「占領下の日本」「民主化と日本国憲法制定」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページ見開きのレイアウトを統一している。</p>
<p>令 書</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①タイトルのみ示し、本文の後に「考えよう」のコーナーを設け、学習課題を示している。</p> <p>②写真資料に「世界遺産」「重要文化財」のマーク表示がある。「国宝」についてその旨の記載がある。本文や資料、コラムに、神話・伝承についての記載がある。</p> <p>③歴史に見られる国際関係や日本に影響を与えた文化交流について、本文の他、コラムに記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載している。</p> <p>⑤「政治」「文化」「外交」「産業」の視点からの設問に答えた後、Qに対して文章でまとめさせる工夫がある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥年表に基づき、「政治」「外交」「文化」「産業」の4つの観点からの問いが示されている。</p> <p>⑦身近な地域の歴史の調べ学習について、「事前に調査する」「実際に見に行く」「年表に書く」「今を生きる私達との関わりについて考える」ことについて簡潔に説明している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習</p>

についてはコラムに本文と関連した記載があり、地域事例については「身近な歴史を年表にまとめよう」で歴史の調べ方を示している。

- ⑨民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きについて、古代「ギリシャ・ローマの文化」、近代「イギリス革命とアメリカの独立戦争」「啓蒙思想とフランス革命」、現代「GHQの占領政策」「大日本帝国憲法の改正」というタイトルで記載し、関連する資料を掲載して学習内容の充実を図っている。

#### **第5の観点**

- ⑩資料とともに二次元コードが記載されており、デジタルコンテンツにアクセスできる。
- ⑪本文は縦書き、脚注は横書きである。掲載情報は多い。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（公民的分野）
発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとに生徒の興味を引くタイトルと副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を示しており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるとともに、予め何を理解すればよいか明確になっている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」が設けられており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。</p> <p>②「対立と合意」「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題を取り上げている。</p> <p>③国旗・国歌については、「国際社会における国家」の中で取り扱っている。我が国の領域をめぐる問題については、「領土をめぐる問題の現状」で取り扱っている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④1章をとって持続可能な社会の形成について考えさせている。</p> <p>⑤「確かめよう」「ふり返ろう」により段階的に学習を振り返った後、複数の資料を活用しながら「深めよう」で多面的・多角的に考えさせている。効率的かつ深い思考となるよう思考ツールを活用している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭3ページを単元の導入に使っている。3枚の写真から学習内容を大まかにつかませた後、導入の活動についてグループ学習、個人学習を行わせ、章の探究学習につなげている。3ページ目に「探究のステップ」として各節の問いを掲載している。</p> <p>⑦持続可能な社会形成に関わる課題について、「1課題の設定→2資料の収集と読み取り→3意思決定→4提案参加」と学び方の手順が具体例とともに示されている。思考ツール「ウェビング」の活用や、スライド資料の作成例等が掲載されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧補充的・発展的な学習については特設ページ「もっと知りたい!」「18歳へのステップ」を設け、本文学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨特設ページ「18歳へのステップ」、章末「深めよう」を設け、社会参加を促す内容としている。18歳に有権者となることが意識づけられるとともに、社会参画意識が醸成される効果が期待できる。</p>



	<p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一し、資料の掲載部分に薄い色をつけ、本文との区別をしている。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとに生徒の興味を引くタイトルと副題し、「どのような」「どのように」といった学習課題を示しており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるとともに、何を理解すればよいか明確になる。また、右ページ下部に「確認!」「表現!」が設けられており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。</p> <p>②「対立と合意」「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題や地域の問題を取り上げている。</p> <p>③国旗・国歌については「国際社会を構成する国」の中で取り扱っている。我が国の領域をめぐる問題については「日本の領土をめぐる」、特設ページ「なぜ外交の役割は重要なのだろう」で取り扱っている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④1章をとって持続可能な社会の形成について考えさせる工夫がある。</p> <p>⑤「HOP!」「STEP!」「JUMP!」により、段階的に学習を振り返り、章の問いについて考えさせている。その際、思考ツールを紹介し、活用させている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭3ページを単元の導入に使っている。3～4枚の写真から学習内容に興味をもたせた後、学習のはじめの課題に取り組みせ、章全体の問いにつなげている。また、課題について考えることを通して、公民的分野における「見方・考え方」について理解できるようになっている。</p> <p>⑦持続可能な社会形成に関わる課題について、「(1) テーマを選ぶ→(2) 私の提案「自分を変える、社会を変える」を実際につくる」と学び方の手順が具体例とともに示されている。「私の提案」作成ナビ」によって学び方のポイントや、他者への対話をするべきことが示されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧補充的・発展的な学習については特設ページ「持続可能な社会に向けて」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨特設ページ「持続可能な社会に向けて」、章末「学習のまとめと表現」を設け、社会参加を促す内容としている。</p>

	<p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一し、資料の掲載部分に薄い色をつけ、本文との区別をしている。</p>
帝 国	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。また、小単元全体を通した問いを掲載している。右ページ下部に「確認しよう」「説明しよう」が設けられており、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②「対立と合意」「効率と公正」の扱いについて、地域の問題を取り上げている。</p> <p>③国旗・国歌については「国家と国際社会」の中で取り扱っている。我が国の領域をめぐる問題については「領土をめぐる取り組み」の中で取り扱っている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④1章をとって持続可能な社会の形成について考えさせる工夫がある。</p> <p>⑤章の学習を節ごとに振り返った後、章全体の問いについて考えさせている。効率的かつ深い思考となるよう図や思考ツールを活用している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭3ページを使っている。「公民的分野」「地理的分野」「歴史的分野」に係る3枚の写真から学習内容を大まかにつかませた後、導入の活動を行わせ、章の問いにつなげている。</p> <p>⑦持続可能な社会形成に関わる課題について、「課題を決めよう→資料を集めよう→考察しよう→レポートを書こう」と学び方の手順が具体例とともに示されている。資料収集の方法や、聞き取り調査の方法、考察の例など、学び方のポイントが詳細に示されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧補充的・発展的な学習については特設ページ「アクティブ公民」「未来に向けて」「18歳への準備」を設け、本文の学習と関連したテーマを取り扱っている。</p> <p>⑨特設ページ「アクティブ公民」「18歳への準備」を設け、社会参加を促す内容としている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p>

	<p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
日 文	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。学習課題から「見方・考え方」へつなげる表示がある。見開き右ページに「確認」「表現」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②「対立と合意」「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題や地域の問題を取り上げている。</p> <p>③国旗・国歌については「国家と国際関係」の中で取り扱っている。我が国の領域をめぐる問題については「日本の領土をめぐる問題」、特設ページ「日本の領土をめぐる問題の解決に向けて」で取り上げている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④1章をとって持続可能な社会の形成について考えさせる工夫がある。</p> <p>⑤章の問いに対して学習活動を振り返り、自分の考えを文章にまとめさせるとともに、思考ツールを紹介し、活用させる工夫がある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭2ページを単元の導入に使っている。5～9コマの漫画で、生徒に興味を持たせながら、学習内容を大まかにつかませる工夫がとられている。また、章の問いや各節の問いが掲載されており、学習の見通しをもって単元の学習に臨むことができるようになっている。</p> <p>⑦持続可能な社会形成に関わる課題について、「1テーマの設定→2資料の収集と読み取り→3考察と構想→4まとめと評価」と学び方の手順が具体例とともに示されている。世代間の公正の観点、防災・減災の観点、再生可能エネルギーなど、様々なテーマに基づく調査の例が掲載されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧補充的・発展的な学習については特設ページ「明日に向かって」「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨特設ページ「明日に向かって」「チャレンジ公民」を設け、社会参加を促す内容としている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
自由社	<p><b>第1の観点</b></p>

	<p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。</p> <p>②「対立と合意」「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題や地域の問題を取り上げている。</p> <p>③国旗・国歌については「国旗と国歌」、特設ページ「もっと知りたい国旗と国歌を考えてみよう」で取り上げている。我が国の領域をめぐる問題については「国家と国際関係」、特設ページ「もっと知りたい わが国の領土問題」で取り上げている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>④特設ページで持続可能な社会の形成について考えさせる工夫がある。</p> <p>⑤「学習のまとめ」「学習の発展」の2項目から構成している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥章の冒頭1ページにイラストを掲載し、章で学ぶ内容を問いとして記載している。</p> <p>⑦巻末に「課題の探究 レポートと卒業論文をつくろう」があり、レポートとして「行ってみたい国を調べ紹介するレポートをつくってみよう。」、卒業論文として「「持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるか」を考え、「卒業論文」を作成してみよう。」と課題が示されるとともに、学び方を記載している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧補足的・発展的な学習については特設ページ「もっと知りたい」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。</p> <p>⑨特設ページ「アクティブに深めよう」を設け、社会参加を促す内容としている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩様々な資料が掲載されている。二次元コードは掲載されていない。</p> <p>⑪本文ページのレイアウトを統一している。</p>
育鵬社	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。また、見開き右ページに「確認」「探求」を設定し、学習課題に対応した課題を示している。</p> <p>②「対立と合意」「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題や地域の問題を取り上げている。</p> <p>③国旗・国歌については「国家と私たち」の中で取り扱っている。領域をめぐる問題については「領土・領海をめぐる問題」、特設ページ「学習を深めよう 日本の領土をめぐる問題」で取り上げている。</p>

## 第2の観点

- ④ 1章をとって持続可能な社会の形成について考えさせる工夫がある。
- ⑤ 「政治のこれから」「経済のこれから」「国際社会のこれから」というテーマに基づき、資料を読み取ったり、話し合ったりしながら問いについて段階的に考えさせる工夫がある。

## 第3の観点

- ⑥ 章の冒頭3ページを導入に使っている。3枚の写真から学習内容を大まかにつかませた後、学習の入り口としての課題に取り組み、章全体の問いにつなげている。3ページ目に各節の問いを掲載している。
- ⑦ 持続可能な社会形成に関わる課題について「テーマを決めよう→課題探究の計画を立てよう→プレゼンテーションしよう→内容の見直し→レポート作成」と学び方の手順が具体例とともに示されている。思考ツール「ウェビングマップ」の活用やテーマ例等を示している。

## 第4の観点

- ⑧ 補充的・発展的な学習については特設ページ「やってみよう」「学習を深めよう」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。
- ⑨ 特設ページ「やってみよう」、章末「〇〇のこれから」を設け、社会参加を促す内容としている。

## 第5の観点

- ⑩ 資料とともに二次元コードが記載されており、多くのデジタルコンテンツにアクセスできる。
- ⑪ 本文ページのレイアウトを統一している。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（地図）
-----	---------

発行者	総合的な所見
-----	--------

東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①巻頭に「この地図帳の地図記号」「この地図帳の活用方法」を設け、一般図や主題図等の見方、読み取り方、デジタルコンテンツの使い方を記載している。</p> <p>②日本の各地方のページに歴史に関する資料を掲載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③歴史、公民、SDGsとの関連を示すマークを設け、関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設定している。</p> <p>④「この地図帳でいっしょに“世界旅行”をするミツバチーズ」というキャラクターが、地図の活用や学習を深めるためのヒントとなる問いを出している。生徒が親しみを感じながら、地図の活用や、地理の学習を深めるためのヒントとして、問いについて考えたり、考えた結果を表現したりすることができるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑥インデックスを「世界全体」「日本全体」「世界と日本の地域ごと」「統計」「さくいん」に分類し、さらに世界は州ごとに、日本は地方ごとに細かく分類し、色分けしており、目指す州や地方等がどのページに掲載されているか、容易に探すことができるよう工夫してある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑦デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードを記載してあり、そのページに関する地図や問いの解答を見ることができる。</p>
-----	---

帝 国	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①巻頭に「この地図帳の凡例」「地図帳の使い方」を設け、一般図、鳥瞰図、主題図等の見方や使い方を記載している。鳥瞰図が掲載されていることで、生徒にとって分かりやすく、興味をもって学習をすることができる。</p> <p>②日本の各地方のページに歴史に関する資料を掲載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③歴史、公民、SDGsとの関連を示すアイコンや「防災」「環境」「日本との結びつき」コーナーを設け、別のページにある関連する資料との</p>
-----	--

<p>つながりを示す「リンク」というマークを設定している。</p> <p>④「資料発見！」のコーナーを設け、地図をもとに確認したり深めたりする問いを掲載している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。資料ページには鳥瞰図があり、生徒にとって分かりやすく、興味をもって学習をすることができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑥インデックスを「資料」「世界」「日本」「統計」「さくいん」に分類し、色分けしているおり、シンプルで分かりやすい。地図や資料を豊富に掲載している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑦デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードを記載してあり、該当の地域についての資料、動画が一覧で表示している。</p>
--

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	数 学
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各学習のはじめに「Q考えてみよう」を設定して学習のきっかけとするとともに、見通しを立てるための考え方を示している。</p> <p>②1年「比例・反比例」では、水槽に水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係について、表にまとめながら考えることを通して関数の概念について考えることができるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。箱ひげ図とヒストグラムなど異なる図を比較して、その特徴を比較することで説明を行うことができるようにしている。（2年）</p> <p>④導入場面で、4種類の多角形を提示し、内角の和の求め方を考え説明する。いろいろな求め方を説明する中で、友だちの考えや他の考えを知り、さらに別の多角形の内角の和はどうなるのか考えさせる活動を設定している。（2年）</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用できる題材を取り上げている。社会で数学を活用している人を紹介した読み物を載せている。また、その人の仕事に関わる課題を取り上げている。</p> <p>⑥飲み物を保冷バックに入れると、どれくらいの間、飲み物を冷たく保てるか考える。「問題をつかむ→見通しをたてる（自分で考えてみよう、友だちの考えを知ろう）→問題を解決する（話し合ってみよう）→ふり返る→深める」という問題解決の過程を示している。</p> <p>⑦振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく学んだことを考える。・大切だと思った考え方をまとめる。</li> <li>・疑問に思ったことを振り返る。・次に考えてみたいことを考える。</li> </ul> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧「数学の目で、振り返ろう」で、学年を越えて働かせることができる「見方・考え方」を確認できるようにしている。「数学の自由研究」で日常生活や他教科の学習と関連した課題やそれをレポートにまとめる活動を例示している。</p> <p>⑨発展的内容は「いろいろな数の分母の有理化」「2次関数」「瞬間の速さ」「容積を最大にするには？」がある。（3年）</p> <p><b>第5の観点</b></p>



	<p>⑩デジタルコンテンツが豊富で、視覚的に確認できる。また多くの問いの類題がフラッシュカードになっており、学び直しに活用することができる。</p>
大日本	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各学習のはじめに「考えよう？」を設定して学習のきっかけとともに、学習のめあてを示している。</p> <p>②1年「比例・反比例」では、1時間ごとの気温の変化のようすなど、ともなって変わるいろいろな数量のうち、2つの数量に着目して、それらの数量の関係について考えることを通して、関数の概念について理解できるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。複数の箱ひげ図を比較して、その特徴を比較することで説明を行うことができるようにしている。(2年)</p> <p>④導入場面で、五角形の内角の和を求めたカルロスさんの考え方(一つの頂点からひいた対角線によって三角形に分ける)を使って、六角形と七角形の内角の和を求める活動を設定している。(2年)</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用できる題材を取り上げている。仕事の中の数学を紹介する読み物を載せている。</p> <p>⑥富士山八合目の気温を予想する。「問題を見いだそう→解決のしかたを探ろう→解決しよう→深めよう」という問題解決の過程を示している。</p> <p>⑦振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決の過程や結果を振り返る。</li> <li>・新しく学んだことをまとめる。</li> <li>・疑問に思ったことやもっと調べたいことをあげる。</li> </ul> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧「課題学習」で、各領域の内容を総合したり、日常生活や他教科の学習と関連付けたりする課題等を掲載している。「MATHFUL」で、数学が生活に生かされていることや、数学の世界を知ることができる読み物を掲載している。</p> <p>⑨発展的内容は「多項式を累乗する展開」「背理法」「分母が多項式であるときの有理化」「2次関数」「図形のなかにいろいろな関数を見つけよう」などがある。(3年)</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩二次元コードから、「例・例題の解説動画」などのデジタルコンテンツを利用できる。解説動画を見て個別で学ぶことができる。</p>
学 図	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各学習のはじめに「Q u e s t i o n」を設定して学習のきっかけと</p>

	<p>するとともに、生徒の発言により、問題解決の見通しを持たせている。</p> <p>②1年「比例・反比例」では、プールや水槽に水を入れる時の水を入れる時間と水位の関係や、窓を開けた時の開けた幅と開けた部分の周囲の長さの関係について考えることを通して、関数の概念について理解できるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。複数の箱ひげ図を比較して、その特徴を用いて他教科で学習した知識と関連付けて説明を行うことができるようにしている。(2年)</p> <p>④導入場面で、2人の会話から小学校のとき五角形の内角の和を求めたことを想起させ、いろいろな求め方を考える中で、拓真さんの求め方(三角形分割)を取り上げ、多角形の内角の和の性質について考える活動を設定している。(2年)</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤学習内容を深めたり広げたり、日常生活に活用できる題材を取り上げている。学習内容が、どの職業に関連するかを載せている。数学の歴史を紹介した題材も載せている。</p> <p>⑥水を熱する実験で、水が沸騰するのは何分後になるか予測する。「問題を見つけよう→実験して考えよう→グラフに表してみよう→説明してみよう→式に表して考えよう→新たな問題を見つけよう」という問題解決の過程を示している。</p> <p>⑦振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決するために、どんなことを学んだかをまとめる。</li> <li>・問題を解決するために、どんなことがわかったかをまとめる。</li> </ul> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧「今の自分を知ろう」で、SDGsに関連した課題を取り上げ、これまで身に付けた数学の力を使って、自分たちに何ができるかを考察する活動を設定している。「数学の力」で、数学を仕事や生活に生かしている社会人のスペシャルインタビューを掲載している。</p> <p>⑨発展的内容は「乗法公式を使った分母の有理化」「2次方程式のおもしろい解き方」「逆関数」「平均の速さ」「方べきの定理」などがある。(3年)</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩二次元コードから、教科書アドバイザー「マスマス」などを利用することができる。AIチャットで質問することができ、個別のつまづきにも柔軟に対応できる。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各学習のはじめに「Q 考えてみよう」などを設定して学習のきっかけとするとともに、生徒の発言により、考え方の手がかりを示してい</p>

	<p>る。</p> <p>② 1年「比例・反比例」では、水槽に水を入れ始めてからの時間と水面の高さについて、表にまとめて考えることを通して、関数の概念について理解できるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③ 生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。複数の箱ひげ図を比較して、その特徴を比較することで変化について説明を行うことができるようにしている。 (2年)</p> <p>④ 導入場面で、小学校での三角形の内角と外角について学習したことを想起させ、1つの頂点から対角線をひく方法で多角形の内角の和を求める活動を設定している。(2年)</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤ 学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用できる題材を取り上げている。社会や職業の中で、数学が活用されている例を紹介した読み物を載せている。</p> <p>⑥ 文化祭の案内状をA社とB社のどちらに依頼すると印刷料金が安いかを考える。「問題を見いだす→問題をつかむ→見通しを立てる→問題を解決する→振り返る→深める」という問題解決の過程を示している。</p> <p>⑦ 振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことのよさを考える。</li> <li>・ 大切だと思った見方・考え方をまとめる。</li> <li>・ 数学の楽しさについて考える。</li> </ul> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧ 「学んだことを活用しよう+ (プラス)」で、日常生活や他教科の学習と関連付けた課題等を掲載している。「学びのマップ」で、下学年の既習内容を整理するとともに、当該学年の既習の学習との系統性を示している。</p> <p>⑨ 発展的内容は「乗法の公式を使った分母の有理化」「負の数の指数を使った累乗の表し方」「2次関数」「放物線と直線の交点」などがある。(3年)</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩ 二次元コードから、「操作」「動画」「統計ツール」「資料」のデジタルコンテンツを利用できる。思考の補助として活用することができる。</p>
啓林館	<p><b>第1の観点</b></p> <p>① 各学習のはじめに「説明しよう」「話し合おう」として、誤答例を示し、正しくない理由を説明したり、どのように直せば正しくなるかを考えたりする問題を取り扱っている。</p> <p>② 1年「比例・反比例」では、箱をつくる時、切り取る正方形の1辺</p>

	<p>の長さが変わることにもなって、箱の底面の1辺の長さが変わることなどについて考えることを通して、関数の概念について理解できるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。データのばらつきや箱ひげ図、ヒストグラムなど複数の異なる図を比較して、その特徴を比較することで説明を行うことができるようにしている。(2年)</p> <p>④導入場面で、3種類の多角形の内角の和を求める問題を設定し、1つの頂点から対角線をひく方法で多角形の内角の和を求める活動を設定している。(2年)</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用できる題材を取り上げている。学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用できる題材を取り上げている。</p> <p>⑥調べたダム貯水量から水不足の対応がとられる時期を予想する。「状況を整理し、問題を設定しよう→解決の見通しを立てて、問題を解決しよう→問題解決の過程を振り返って、気づいたことやもっと調べてみたいことを話し合い、問題を深めよう」という問題解決の過程を示している。</p> <p>⑦振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返る。</li> <li>・気づいたことやもっと調べてみたいことを話しあう。</li> <li>・問題を深めたことを考える。</li> </ul> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧「学びをふりかえろう」で、下学年で学んだ内容を復習する問題を掲載している。「学びをいかそう」で、日常生活や他教科の学習と関連した課題等の例を示している。</p> <p>⑨発展的内容は「<math>\sqrt{2}</math>が無理数であることの証明」「変化の割合の計算」「グラフの交点の座標」「三角形の五心」などがある。(3年)</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩二次元コードから、「補充問題」「例・例題の解説動画」などのデジタルコンテンツを利用できる。例の解説動画を見て個別で学ぶことができ、「補充問題」が充実しているため、学び直しにも活用することができる。</p>
数 研	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各学習内容の導入で「Qマーク」を設定して学習のきっかけとするとともに、生徒の発言により、問題解決のための手がかりを示している。</p> <p>②1年「比例・反比例」では、500円硬貨ばかり入れている貯金箱Aと、それ以外の硬貨を入れている貯金箱Bそれぞれについて、硬貨を</p>

	<p>何枚か取り出し、硬貨の枚数と重さの関係について考えることを通して、関数の概念を理解できるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。箱ひげ図と折れ線グラフなど異なる図を比較して、その特徴を比較することで説明を行うことができるようにしている。(2年)</p> <p>④導入場面で、2人の会話から四角形や五角形の内角の和の求め方(三角形分割)を想起し、1人の考え方をもとに表をつくることで、n角形を何個の三角形に分けられるか考えさせる活動を設定している。(2年)</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤学習内容を深めたり広げたり、日常生活の学習に活用できる題材を取り上げている。</p> <p>⑥水を熱する実験で、熱し始めてから6分後の水温を予想する。二人の生徒と先生の会話によって、問題解決の過程を示している。</p> <p>⑦振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた過程をまとめる。</li> <li>・新しく気付いたことなどをまとめる。</li> </ul> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧「数学旅行」で、数学を生かして仕事をしている人のインタビュー記事や、日常生活や他教科の学習と関連した課題等を掲載している。「学びの自己評価」で、自分で学ぶ力、学び合いの力それぞれについて、確認する表がある。</p> <p>⑨発展的内容は「<math>\sqrt{2}</math>が無理数であることの証明」「放物線と直線の交点の座標」「三角形の重心と内心」「円に関するいろいろな性質」などがある。(3年)</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩二次元コードから、「補充」「イメージ」「資料」などのデジタルコンテンツを利用できる。用語辞書や公式集を見ることができ、学び直しに活用することができる。</p>
日 文	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各学習内容の導入で「Qマーク」を設定して学習のきっかけとするとともに学習のめあてを示している。</p> <p>②1年「比例・反比例」では、歩数と道のりなど、1つの数量が決まるとそれにとまって、もう1つの数量が決まるものを通して、関数の概念について理解できるようにしている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③生徒が主体的に学習したことを活用して説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。複数の都市の箱ひげ図を経年でまとめ、その特徴を比較することで説明を行うことができるようにしている。</p>

(2年)

- ④導入場面で、三角形の内角の和を想起させ、もっと頂点の数が多い多角形の内角の和を考える。まず、陸さんが考えた四角形の和の求め方(三角形分割)で五角形の内角の和を求め、さらに六、七角形の内角の和を求める活動を設定している。(2年)

### 第3の観点

- ⑤学習内容を深めたり広げたり、日常生活の学習に活用できる題材を取り上げている。数学を仕事に生かしている人の話を取り上げている。
- ⑥同じ大きさの冷蔵庫について調べた結果から、どちらの冷蔵庫に買いかえるのが得かを考える。「身近なことがら→数学の問題にしよう→見通しをもとう→考えよう→話し合おう→ふり返ろう→深めよう」という問題解決の過程を示している。

### ⑦振り返りの視点

- ・どんなことがわかったかまとめる。
- ・問題を解決するとき、どんな方法や考え方、表し方が役に立ったか考える。
- ・学んだことがらには、どんなよさがあったか考える。
- ・次にしたいこと、さらに調べてみたいことをまとめる。

### 第4の観点

- ⑧「SDGsと数学」で、SDGsと関連のある暮らしの中の数学の話に掲載している。切り取って使い、ノートに貼って残せる「振り返りシート」と「対話シート」がある。
- ⑨発展的内容は「分母が多項式である有理化」「参加人数と試合数」「放物線と直線の交点」「関数 $y = x^2$ 」などがある。(3年)

### 第5の観点

- ⑩二次元コードから、「見る」「ためす」「身につける」「図形のまとめ」「調べる」「統計ツール」のデジタルコンテンツを利用できる。思考の補助として活用することができる。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	理 科
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①単元や章の初めの「学習前に書こう」、単元や章の終わりの「学んだことをチェックしよう」「学習後も書こう」で認識の形成を支援している。単元の終わりに「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を設定している。</p> <p>②観察・実験にあたっては、「観察の目的」、「観察の方法」では手順のまとまりごとに「ステップ」、「結果の見方」「考察のポイント」として探究の過程を示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③各単元や小単元のはじめに印象的な写真や漫画を掲載し、生徒の思考に沿う疑問や単元を貫く問いが書かれている。</p> <p>④「構想」の中で、既習事項と関連させながら計画を立てる視点を示している。「分析解釈」の中で、結果からわかることが記載されており、さらに改善できる視点について示されている。</p> <p>⑤巻頭に、話し合いの進め方や説明のポイントについて書かれている。また、「議論のしかた」を設定し、4つのポイントが示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥日常生活や社会に広げて考えることができる「学びを生活や社会につなげよう」という内容を提示している。分野ごとに、理科に関連した事物・現象の読み物が豊富に提示されており、科学が発展してきた歴史等も紹介されている。生徒の興味・関心を高め、理科の有用性を感じさせる事に役立っている。</p> <p>⑦巻頭に「「探究」の流れを確認しよう」として探究の過程を活動例とともに示している。ページの下部に「問題発見」「?」「構想」「分析解釈」等のキーワードのタブに色を付け、そのページが探究の過程のどの段階を学習しているかを示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>⑨巻末資料では、理科の見方・考え方を広げるもの、学習に必要な知識・技能が確認できる。単元末の発展的探究課題では、学習内容の振り返りができる活動が仕組まれている。コラムでは、高校につながる</p>

	<p>発展的なものが多く、学習内容を実生活につなげる内容のものもある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩探究的な学習のサポートとして、様々なデジタルコンテンツが豊富に用意されている。生徒にとって、学習したことを定着させたり、学びを広げたり、深めたりするものとなっている。教師にとっても、指導の助けとなっている。</p>
大日本	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①単元の終わりに「探究活動」、「まとめ」、「単元末問題」、「読解力問題」、「つながる」を設定している。基礎的な知識の復習から活用まで幅広くおさえている。</p> <p>②観察・実験にあたっては、目的、着目点、必要なものを明記している。また、「基本操作」では、図・写真やイラストで手順や観察・実験で用いられる器具の基本操作（技能）を示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③各単元のはじめに印象的な写真が掲載され、単元を貫く問いが示されている。既習事項の復習が整理されている。</p> <p>④「計画を立てよう」の中で、実験方法の計画の視点が記載されている。分析解釈については、「結果の整理」の場面において例が記載されており、そこから考察できるようになっている。</p> <p>⑤第1学年の巻末のみに、「探究の進め方」を設定し、問題を見つけよう、課題をつかもう、予想や仮説を縦用の流れが示されている。また、「話し合おう」が設定され、話し合いの内容や方法が整理されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥生徒が学習内容に興味・関心をもつような活動を複数提示している。暮らしの中で体験する事物・現象を「暮らしの中の理科」として日常生活に関連付けて提示している。</p> <p>⑦第1学年の巻末に「探究の進め方」として探究の過程を示している。「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「結果から考えよう」「振り返ろう」等のマークを表示することで、重点を置く探究の過程を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>⑨巻末資料では、基本操作が多く掲載されており、他教科とのつながりも掲載されている。単元末の発展探究活動では、学習内容を振り返る</p>



	<p>ことができる活動が仕組まれている。コラムでは高校につながる発展的なもの、学習内容を実生活につなげる内容のものが多い。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩数は少ないが、学習したことを確実に定着させ、より深く理解するために役立つデジタルコンテンツが用意されている。</p>
学 図	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①単元の終わりに「学習のまとめ・用語を覚える」と「学習のまとめ・基本問題に慣れる」で基礎・基本の定着に重点を置き、巻末に「計算問題」「読解力強化問題」「思考をさらに深める」の活用的な問題を設けている。</p> <p>②観察・実験にあたっては、「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」「結果」「考察」と表記している。実験や観察のページの上部に基本操作について参考にする補充資料の掲載ページを示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③単元のはじめに大きな写真が掲載され、SDGsとの関連が示され、学習課題や復習事項が整理されている。</p> <p>④「仮説」「計画」の中で、計画する視点をイラストを交えて示している。「結果から考察する」の中で、実験結果が記載されており、そこから考察できることも書かれている。</p> <p>⑤巻頭に「理路整然－智に働けば役に立つ－」を設定し、レポートや発表での意見の伝え方が示されている。また、「Can-Do List」のように学びに向かうか」に話し合いに関する内容が書かれている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥理科を学習する意味を各学年の学習内容につなげて、吹き出しや漫画のような形で提示している。各章でCan-Do Listが設定しており、単元における目標や学ぶべきことを明確にしている。</p> <p>⑦巻頭に「どうする、探究の進め方」として探究の過程を示している。また「なぜ理科を学ぶの？」として漫画で課題設定等の場面を例示している。各探究の場面で、「気づき」「課題」「仮説」「計画」等の探究の過程をページ端に示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>⑨巻末資料では、基本操作や、思考をさらに深めるための内容が多く掲載されている。コラムでは、学習の補助としての内容のものがほとんどである。</p>

	<p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩教科書の二次元コードから、ウェブ上で教科書を見ることができ、そこから動画コンテンツや、操作コンテンツを活用することができる。生徒にとって、学習したことを定着させたり、学びを広げたり、深めたりするものとなっている。教師にとっても、指導の助けとなっている。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①単元の終わりに「重点と重要用語の整理」と「基本問題」「活用問題」「広がる科学の世界」を設定している。基礎的な知識の定着→問題を実際に解く練習という流れになっている。</p> <p>②観察・実験にあたっては、「目的」「準備」「方法」「結果」と項目で示され、観察・実験で使用する器具や装置の操作などは巻末資料の「基礎技能」として本文とは区別して示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③単元や小単元のはじめに印象的な写真が掲載され、単元を貫く問いや学習内容の見通しが整理されている。</p> <p>④「計画を立てる」の中で、既習事項をもとに計画を立てる視点が示されている。分析解釈については、「考察する」の場面で例が記載されており、そこから考察することができるように視点が示されている。</p> <p>⑤「話し合おう」が設定され、課題解決に向けて話し合う場面が示されている。また、レポートの作成の場面で、内容を整理して発表する活動が示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥各章ごとに学習内容をより深めるための「ハローサイエンス」という読み物を提示している。他教科とのつながりを明確にし、理科に活用できるような資料を提示している。</p> <p>⑦各学年の巻頭に「探究の進め方 さあ、探究を始めよう！」として探究の過程を示している。また、各単元内において「疑問を見つける」「課題を決める」「仮説を立てる」等のマークを表示することで、探究の過程を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。</p> <p>⑨巻末資料では、基本操作が多く記載されており、他教科とのつながりも掲載されている。単元末の発展探究活動では、学習内容を発展させる内容のものが掲載されている。コラムでは、学習内容を発展させる内容のものがほとんどである。</p>

	<p><b>第5の観点</b></p> <p>⑩教科書に掲載されている二次元コードからつながる「まなびリンク」のデジタルコンテンツで学びをサポートしている。</p>
啓林館	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①章の終わりに「Review ふり返ろう」、単元の終わりに「学習のまとめ」、「力だめし」、「みんなで探Qクラブ」が設定されている。基礎的な知識の復習から思考力を問う問題まで幅広くおさえている。</p> <p>②観察・実験にあたっては、「目的」「方法」「結果」「考察」で探究の過程を示している。さらに「方法」では「ステップ」で詳しい手順を示している。基本的な実験操作や器具の使い方、表やグラフのかき方は、「観察・実験などの技能」を設け、解説している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③単元や小単元のはじめに大きな写真とともに単元の内容が説明されている。学びの見通しや単元を貫く問い、復習も示されている。</p> <p>④「計画」の中で、既習事項と関連付けながら計画する視点を示している。また、巻末に探Qシートが単元ごとにある。分析解釈については、「考察」として示されており、考察の視点も示されている。</p> <p>⑤巻頭に、「探究の過程」が整理され、表現の部分で他者へ発表することが示されている。また、「発表してみよう」のアイコンで、実験結果を発表する場面が設定されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑥分野ごとに、日常生活とのつながりを意識した科学コラムが充実しており、学校生活等とのつながりが実感できるような話題を提示している。「部活ラボ」「お料理ラボ」等がそれである。生徒の興味・関心を高め、理科の有用性を感じさせる事に役立っている。</p> <p>⑦巻頭及び巻末に探究の過程の流れを示している。各単元の一箇所に「探Q実験」を設定し、巻末に添付した「探Qシート」に生徒が書き込むことで、「自身で仮説を立て、その仮説を元に、自らが実験計画を立てる活動」が行えるようにしている。この探究の過程に沿った学習活動は生徒の「科学的に探究する力」の育成に寄与している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑧2分野→1分野の順で配列している。</p> <p>⑨巻末資料では、探究に関することが多く書かれている。単元末の発展探究活動では、学習内容の振り返りができる活動が仕組みられている。対照実験を行わせ、根拠を持って考察を行うことができる。コラムでは、学習内容を実生活につなげていく内容のものが多く掲載されてい</p>

る。

#### 第5の観点

⑩動画コンテンツだけでなく、振り返りシートや、動かせたり編集できたりする多様なコンテンツがある。生徒にとって、学習したことを定着させたり、学びを広げたり、深めたりするものとなっている。教師にとっても、指導の助けとなっている。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音 楽（一 般）
発行者	総合的な所見
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①歌うための姿勢や母音の発音についてイラストを使用して示しており、それらを意識しながら歌えるように参考楽曲を示している。また、年間を通して段階的に表現の工夫に繋がるよう示している。</p> <p>②教材のページの端に縦書きで題材名、教材名の下に活動ポイントを示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③曲を比較してそれぞれの曲の特徴を生かした表現の工夫を考えさせたり、旋律のまとまりを感じ取り、表現の仕方を考えさせる「ACTIVE!」を掲載したりしている。</p> <p>④「ACTIVE!」の中で、「見方・考え方」の手立てとなる音楽を形づくっている要素にフォーカスして鑑賞できるよう示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤巻頭に、様々な演奏者の想いやメッセージと教材曲の作曲者に関する内容および自筆譜を掲載している。</p> <p>⑥「劇場・音楽堂へ行こう!」として音楽とのかかわり方を紹介する資料を掲載している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦第1学年の鑑賞教材として、箏曲「六段の調」、尺八曲「鹿の遠音」、日本とアジアの声によるさまざまな表現、日本とアジアをつなぐ音、郷土のさまざまな民謡、歌唱教材として、「ソーラン節」、「かりぼし切り歌」、「故郷（全校合唱）」を掲載している。</p> <p>⑧全学年とも歌唱教材、鑑賞教材、創作の順に配列している。その後、「歌のアルバム」の合唱曲集、国歌「君が代」、楽典、資料の順に配列している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各学年の巻頭の「学習 MAP」のページに、「学習の進め方 How to Study」というコーナーがあり、歌唱・鑑賞・創作の場面で、「音楽を形づくっている要素」を手がかりに学習を進め、よりよい表現を工夫するよう意識づけている。</p> <p>⑩いくらかの教材に二次元コードを記載し、イメージ画像とともに範唱を聴くことができ、曲のイメージを持つことができる。鑑賞教材で</p>

	<p>は、楽曲を鑑賞することができ、ワークシートの活用ができる。</p>
<p>教 芸</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①第1学年の教科書には、「声の出る仕組み」についてイメージし、意識して実践できるよう、息の通り道が分かるイラストを示している。また、成長の段階に合わせて表現の工夫に繋がるよう意識して示している。</p> <p>②教材ページの端に縦書きで学習目標と音楽を形づくっている要素、教材名の下に活動文を示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③「学びのコンパス」で「見方・考え方」を働かせて深い学びを実現するための手立てを示している。</p> <p>④「学びのコンパス」の中で、キャラクターのセリフにより具体的な対話を促す例を示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤巻頭に、様々な表現活動にかかわる人物のメッセージと「音楽とは何か」について様々な分野の人による多角的な考えを掲載している。</p> <p>⑥「生活や社会の中の音や音楽」で音や音楽と生活や文化の関わりについての資料を掲載している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦第1学年の鑑賞教材として、雅楽「平調 越天楽」一管絃一、箏曲「六段の調」、日本の民謡、郷土に伝わる民謡をしらべよう、歌唱教材として、「越天楽」の唱歌を歌おう、「ソーラン節」、「涙そうそう」、「上を向いて歩こう」を掲載している。</p> <p>⑧第1学年では、歌唱教材、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順に配列しており、創作については、関連する歌唱教材及び鑑賞教材のあとに配列している。第2・3学年は、歌唱教材、創作、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順に配列している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各学年の巻頭の「学習内容」のページで、それぞれの教材で、どのようなことを学習するのかを示し、音楽を形づくっている要素との関連を示している。また、掲載している各曲の見開きの左側にも、教材と音楽を形づくっている要素との関連を示し、その曲での学習内容を意識づけている。</p> <p>⑩各教材に二次元コードを掲載し、パート別の旋律、ピアノ伴奏が再生でき、生徒が主体的に学習に取り組むことができる。また、内容や図等の補足説明を見ることやワークシートの活用ができる。</p>

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音 楽（器楽合奏）
発行者	総合的な所見
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①スモールステップで段階的に技能の習得ができるように掲載している。</p> <p>②ページの最上部に見開き2ページ分の題材名を示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③箏の創作では、「荒城の月」の前奏をつくる活動がある。活動1～3の手順を示しており、イラストのキャラクターから、前頁で学習した事項を取り入れ工夫をすることなどのアドバイスをしている。</p> <p>④各楽器のカテゴリーごとに、音楽的な見方・考え方を働かせながら、表現の工夫を考えるワークシートがある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤鑑賞や歌唱表現活動で取り上げる曲を、リコーダーでの表現活動にも取り組めるよう楽譜を掲載している。</p> <p>⑥学習する楽器とつながりのある世界の民族楽器を紹介し、音楽と文化とのかかわりについて考える発展的学習のページを掲載している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦和楽器の基本的奏法に関する内容を分かりやすく表し、和楽器を用いた多様なアンサンブル曲を始め、多数の曲を掲載している。</p> <p>⑧管楽器・弦楽器・打楽器・アンサンブルの順に掲載している。</p> <p>1 リコーダー 2 篠笛 3 尺八 4 ギター 5 箏 6 三味線 7 太鼓 8 アンサンブル曲集・Let's Play!・Let's Try! 9 名曲旋律集 10 資料</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨アルトリコーダーのそれぞれの練習曲に、新しく学習する運指を見開きページの左右の端に図で提示している。また、ソプラノリコーダーの運指も記載している。</p>
教 芸	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①聞き馴染みのある曲や親しみのある曲を通して、技能の習得ができるように掲載している。</p> <p>②ページの最上部に見開き2ページ分の活動内容を示している。また、教材曲の下に活動文を示している。</p>

## 第2の観点

③箏の創作では、課題や条件にそって旋律をつくる活動がある。課題と条件を示し、Warming-up から①～③の手順と創作の例を示している。また、イラストのキャラクターが既習事項である「いろいろな奏法」を取り入れる工夫をするよう促している。

④「アンサンブルセミナー」とともに「学びのコンパス」のページがあり、表現活動を通して思考力・判断力を育む場面を設定している。また、考えたことを記録するワークシートが二次元コードに組み込まれている。

## 第3の観点

⑤ギターと関連付けて、ポップスのバンドスコアを掲載している。

⑥学習する楽器それぞれについて演奏の様子だけでなく、ジャンルを超えて取り入れられている場面や他の芸能とのかかわりを示す資料を掲載している。

## 第4の観点

⑦和楽器のページにおいては、楽器の奏法に関係することだけでなく、各楽器を用いた鑑賞曲も取り上げている。

⑧使用頻度の高い楽器・和楽器・打楽器・アンサンブルの順に掲載している。1 リコーダー 2 ギター 3 箏 4 三味線 5 太鼓 6 篠笛 7 尺八 8 打楽器 9 アンサンブル 10 楽器で Melody 11 資料

## 第5の観点

⑨アルトリコーダーの練習曲の運指を見開き左右どちらかにまとめて図で提示している。



教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	美術
-----	----

発行者	総合的な所見
開隆堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①題材の中で、その活動が「知識・技能」に関する学習であることを明らかにするマークが示されている。</p> <p>②各題材の学習に必要な知識や技能が「美術の用語」に、題材横断的な知識や技能が各巻の巻末に「学びの資料」として示されている。このように系統的に整理された「学びの資料」や、わかりやすく解説している「美術の用語」が生徒にとってつまづくことなく学習に取り組める。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③美術を身近に感じられる掲載作品が多くある。</p> <p>④掲載作品とあわせて「作者のことば」を数多く掲載することで、作品の表現の工夫を知り、それらを活用した表現活動へ展開できるようにしている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤作品図版をできるだけ大きく掲載しており、表紙には思わず触りたくなるような加工が施され、興味・関心をもったり、触って作品の質感を想像できたりするように工夫されている。このように作品の美しさや楽しさが伝わるような工夫は生徒の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができる。</p> <p>⑥伝統的な美術文化や中学生が身近に感じる美術文化を取り上げ、伝統を学び伝えることの大切さや、自分自身の関わりについて考えられるように構成されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦題材を分野ごとに分けて配列しており、内容をページの左上に色と文字で示している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑧作品を原寸大で掲載するなど大きく示し、細かい部分の表現まで見てとることができ、鑑賞の視点を広げている。</p> <p>⑨どのようなコンテンツが入っているのかを、「CONTENTS」として各題材名の上部にまとめて示している。</p>

光 村	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各題材に〔共通事項〕を意識させる鑑賞の問いかけと、形や色彩、材料について、着目すべき「POINT」を示している。</p> <p>②3年間で必要な「描く」「つくる」「写真」「映像」「発想・構想」「形・色・光」「色」について別冊資料（二次元コードを含む）が用意されており、生徒が参照しながら主体的に制作を進められる工夫がある。このように別冊資料として3年間活用できるよう1冊にまとめられている点は教師にとって使い勝手のよいものとなっている。また、美術に苦手意識がある生徒も動画を視聴しながら無理なく取り組めるよう工夫されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③「表現」と「鑑賞」の相互関連を意識し、1つの題材で「鑑賞」「表現」（発想・構想の具体的な手立て）「鑑賞」と一体的に学べる構成になっている。</p> <p>④美術作品の鑑賞の場面における言語活動の示し方を国語科とつなげ、美術鑑賞を広げる言葉をわかりやすく示している。生徒が感じとったことや、発想や構想の工夫が生徒自身の言葉で示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤全ての題材に二次元コードが掲載されており、全国の生徒作品、解説動画、技法動画など、さまざまなコンテンツにアクセスできる。</p> <p>⑥全体を通して多様な日本美術が掲載されており、日本の絵画を風合いのある用紙に掲載するなど、日本美術への理解が深まるような工夫がされている。このように日本の絵画がもつ自然観や美意識を感じ取れたり、より本物に近い感覚で鑑賞できたりするなど、生徒の興味・関心、主体的な学びを促すことができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦題材を分野ごとに分けて配列している。題材の内容をページの左上に色と文字で示している。別冊の資料（36ページ）がある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑧表現の題材に、発想・構想についてのコーナーを設け、生徒作品と作者の言葉を示し、インタビュー動画、作品制作のプロセスを写真と作品などを組み合わせながら紹介している。</p> <p>⑨各題材において、題材名の横に二次元コードで、技法動画、全国の生徒作品、書き込みツール、鑑賞解説動画、作家作品関連動画、美術史用語、地域作品などを示している。特に「体感ミュージアム」では、鑑賞作品に書き込みや、360度回して鑑賞できるようになっている。</p> <p>教科書の裏表紙に学校生活や社会生活に役立つ資料が二次元コードで示されている。このようにデジタル社会にマッチした、生徒の見方を深めることのできる多様な新しい鑑賞の仕方を工夫されている。</p>
日 文	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各題材に〔共通事項〕（知識）への意識を促す「造形的な視点」を設</p>

定している。

- ②材料や用具の取り扱いについて「学びを支える資料」として各巻の巻末にまとめて記載しており、各題材の該当するページには技法の説明動画の二次元コードが示されている。

### 第2の観点

- ③主文、題材導入二次元コンテンツを視聴し、「鑑賞の入り口」と「造形的な視点」、「表現のヒント」をもとに掲載作品の鑑賞、生徒自らの表現、お互いの作品の鑑賞を行うことで学びの定着を図っている。
- ④思考のプロセスが見えるアイデアスケッチや「表現のヒント」、生徒作品の理解を深める「作者のことば」を掲載している。友だちと対話しながら鑑賞する情景写真を掲載し、言語活動を促している。

### 第3の観点

- ⑤二次元コードから見られる二分程度の題材導入動画の中で、主題を生成する投げ掛けや、何を学ぶのかが提示されており、生徒が自分ごとに置き換えて主体的に捉え、対話を増やして学べる工夫がある。このような題材導入動画は、教師にとっても授業準備の負担を軽減するとともに、指導内容はより明確になり、どのような立場の教師にも活用しやすいコンテンツになっている。
- ⑥学校生活のさまざまな場面で美術の働きを生かすことができるよう、生徒の学びの広がりや知識のつながりに配慮しながら、教科等を横断した活用がしやすい事例や題材を取り上げている。

### 第4の観点

- ⑦題材を分野ごとに分けて配列しており、内容をページの左上に色と文字で示している。

### 第5の観点

- ⑧作品を原寸大で掲載するなど大きく示し、細かい部分の表現まで見てとることができたり、屏風作品を実際に折って実感的に鑑賞できたりする工夫があり、鑑賞の視点を広げている。このように本物に近い形で見ることによって鑑賞の視点を広げ、作者の意図や工夫も理解しやすくなり、学びを深められるようになっている。
- ⑨各題材において、二次元コードを示しており、題材導入動画や表現のヒント、学びを支える資料などの二次元コンテンツが視聴できる。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	保健体育
-----	------

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①章扉に、単元を貫く問いを示し、その後に単元の学習内容を示している。1見開き1時間構成とし、ページの始めに、学習課題に迫るような問いを設け、その後に学習課題を明示している。</p> <p>②1見開き1時間構成とし、始めに学習におけるキーワードを示し、最後に学習したことを自分の生活に当てはめられるような課題が示されている。各章末に、キーワードの解説や章末問題などをデジタルコンテンツに収録している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③思考・判断・表現したことを書くための記入スペースを教科書内に設け、学習したことを確かめることのできる工夫が設定されている。</p> <p>④「広げる」として学習した知識をもとに、日常生活との関連性に気付かせたり、さらに調べたりする活動を設定している。思考力、判断力、表現力を効果的に働かせることができるように、シミュレーションや思考ツールに関するデジタルコンテンツが提示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各章の学習内容を、小学校→中学校→高等学校の学習内容と関連させて章扉に示している。また、学習内容に関係した人物が紹介されている。</p> <p>各時間に「見つける」や「活用しよう」「広げる」など、日常生活や既習内容をもとに課題に迫り、まとめでは、事例やグラフをもとに考えたり、更に調べて自分の生活に活かしたりする活動が設定されている。</p> <p>⑥学習内容に関連した「読み物」が紹介されており、各章の終わりには学習内容に関連が深い「章末資料」を示している。例えば、P24～26に「アレルギー」「睡眠はなぜ必要か」「体温測定と健康管理」について掲載してある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦学習指導要領に示されている内容が適切に構成されている。</p> <p>⑧すべての単元において発展的な内容の資料が掲載されている。例えば「章末資料（P50）」に胎児を育てる母体の神秘—胎盤とへその緒—という資料を掲載している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨「見つける」に学習内容に関連した写真やイラストを掲載している。また、1時間の主な流れや内容をわかりやすくマークで示している。</p>

	⑩二次元コードから、デジタルコンテンツ（動画）を掲載したページにアクセスすることができる。
発行者	総合的な所見
大日本	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①章扉に、章での学習内容の概要を、それに関連する写真とともに示している。1見開き1時間構成とし、ページの始めに、学習のねらいを示し、その下に導入の問いを設けている。</p> <p>②1見開き1時間構成とし、最後に学習内容を振り返るためのキーワードを示すとともに、自分の生活に当てはめられるような課題を示している。各章末に、学習のポイントとなる重要な言葉をまとめて示し、ウェブサイトにもまとめの問題を収録している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③各章末の「学びを活かそう」では、思考力、判断力、表現力等が育成される設問などの工夫がされている。</p> <p>④各小単元において「活用して深めよう」として、学習した知識をもとにさらに深く考えるような、思考力を高める設定をしている。さらに、「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」で、協働的な活動を促すことで、思考力、判断力、表現力等が育成される問いが設定されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤章扉に小学校→中学校→高等学校の学習内容と関連させて章扉に示している。また、各時間に「つかもう」や「活用して深めよう」など、興味・関心を高めるきっかけを作る活動や、自分の生活に活かす活動が設定されている。</p> <p>⑥学習内容に関連した「トピックス」や「ミニ知識」が紹介されている。また、各章の終わりに、学習内容に関連が深い「章末資料」を示している。例えば、P26に「身体活動」「10分当りに消費されるエネルギー」「主な食品のエネルギー」「睡眠と情報機器との関係」について掲載してある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦学習指導要領に示されている内容が適切に構成されている。</p> <p>⑧すべての単元において発展的な内容の資料が掲載されている。例えば「トピックス（P44）」にアンガーマネジメントについて掲載している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨「話し合ってみよう」「やってみよう」に学習内容に関連した写真やイラストを掲載している。また、大きな鍵のマークを使ってキーワードを分かりやすく示している。</p> <p>⑩二次元コードから、デジタルコンテンツ（動画）を掲載したページにアクセスすることができる。</p>

発行者	総合的な所見
大修館	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①章扉に、単元を貫く問いを示すとともに、その単元を学ぶ理由や学習内容が日常生活とどのようにつながるのかを示している。1見開き1時間構成とし、始めに導入の問いを設け、その後に学習課題を示している。</p> <p>②1見開き1時間構成とし、始めに学習におけるキーワードを示している。また最後に、生徒が自分の考えを書き込むワークシートと学習内容を振り返るクイズのための二次元コードを示している。各章末に、学習内容を確認する問題と生徒が自分の取組を自己評価する欄を設けている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③「課題をつかむ」では多様な導入活動を提示し、学習課題につながる気づきや思考を促すことができるように工夫されている。</p> <p>④「章のまとめ」として学んだことを活用し、改善策や解決策を考え、導き出す問いを設定している。「学習のまとめ」では多様な表現活動を提示し、自らの思考の過程等を客観的に捉えたり、集団としての考えを形成したりするなど、思考力、判断力、表現力等を育成できる問いが設定されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤章扉に「この章で学習すること」として各単元を構成する主な学習内容が示されている。また、「学習を始める前に」というチェックリストがある。各時間に「課題をつかむ」や「学習のまとめ」が設定されており、自分に関すること、実生活と結びつけた課題が設定されている。</p> <p>⑥学習内容に関連した「コラム」や「掘り下げる」が紹介されている。また、各章の終わりに、学習内容に関連が深い「特集資料」を示している。例えば、P27に「自分の生活をチェックしよう」について掲載してある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦学習指導要領に示されている内容が適切に構成されている。</p> <p>⑧すべての単元において発展的な内容の資料が掲載されている。例えば「特集資料(P75)」に女性のスポーツ選手がおちいりやすい3つの健康問題について掲載している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨「課題をつかむ」「学習のまとめ」のマークには人物のイラスト、キーワードには鍵のイラストをつけるなど、イラストと内容に関連付けている。</p>

	⑩二次元コードから、デジタルコンテンツ（動画）を掲載したページにアクセスすることができる。
--	---

発行者	総合的な所見
学 研	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①章扉に、単元の学習内容の概要・単元を構成する学習内容を示している。1見開き1時間構成とし、始めに学習の課題に関連した身近な話題を取り上げ、その後に、学習課題を示している。</p> <p>②1見開き1時間構成とし、始めに学習におけるキーワードを示し、最後に学習内容をもとに取り組む課題を設けている。また生徒が自分の取組を自己評価するグラフを示している。各章末に、学習内容のキーワードを示すとともに、生徒が自分の取組を自己評価する欄を設けている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③キャラクターが問いや思考を深めるためのヒントを投げかけるなど、語りかける形式によって登場することで、学習を広げたり、深めたりする工夫がある。</p> <p>④「学びを生かす」として習得した知識を活用し、グループでの協働活動をもつことで、思考を深める場面を設定している。また、章末に設定した研究課題（「探究しようよ！」）で、課題の例や学習の仕方を示すことによって、課題解決的な学習が展開されるように設定されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤章扉に学習内容に関連した写真や学習内容に関連した人物やコラムが紹介されている。また、各時間に「ウォームアップ」や「学びを生かす」が設定されており、自分のことや、身近な事例を通して考えることができる課題が設定されている。</p> <p>⑥学習に関連した「コラム」が紹介されている。また、各章の終わりに、学習内容に関連が深い「探求しようよ！」を示している。例えば、P38・39に「アレルギー」「脳死と臓器移植」「睡眠を見直そう」「中学校生活と食事」について掲載してある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦学習指導要領に示されている内容が適切に構成されている。</p> <p>⑧すべての単元において発展的な内容の資料が掲載されている。例えば「探究しようよ！（P131）」に急な大雨や雷・竜巻から身を守るための方法について掲載している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨本文中に学習内容に関連した写真やイラストを掲載している。また、各ページの「ウォームアップ（課題の発見）」や「エクササイズ（課</p>

	<p>題の解決)」の中で、キャラクターが資料の説明をしている。</p> <p>⑩二次元コードから、デジタルコンテンツ（動画）を掲載したページにアクセスすることができる。</p>
--	--



教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	技術・家庭（技術分野）
-----	-------------

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①基礎的な用語のうち、重要語句はゴシック体で表記している。</p> <p>②内容A～Cの第3章及び内容Dの4章の最初の項に「技術の最適化」という項目があり、またその項の冒頭では「生徒のつぶやき」を吹き出しで記載している。このことにより、これまでの学習を振り返らせ、自分の問題解決と社会における問題解決について考えさせることができる。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③技術分野のガイダンス「技術の見方・考え方」の中に、「技術の最適化」について1ページ分の漫画を掲載している。このことにより「製品が、社会科からの要求・安全性、環境への負荷、経済性から折り合いをつけ最適化されていること」について理解をさせやすくなっている。</p> <p>④各内容の第2章にある実習例を「問題解決例」として提示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各内容とも、項目ごとに「目標」「学習課題」を示しており、目標のあとに課題に向かうための導入発問を記載している。</p> <p>⑥「未来の technology」において、これまでの学習を踏まえ、「技術の評価、選択、運用（技術ガバナンス）」「技術の改良、応用（技術イノベーション）」について考えさせるためのワークシートがある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦巻頭に「技術分野のガイダンス」編があり、各内容を1編「材料と加工の技術」2編「生物育成の技術」3編「エネルギー変換の技術」4編「情報の技術」とし、1編から3編は1章から3章、4編は1章から4章で構成している。また、3年生で取り組む問題解決として「総合的な問題解決」編がある。</p> <p>⑧各内容と問題発見のためのテーマを挙げ、製作例などで解決への手順を示すとともに、「もっと問題解決」でさらに問題解決例を挙げている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨関連する内容が技術・家庭科やほかの教科にあるところに「リンクマーク」を付けている。</p>

	<p>⑩「デジタルコンテンツを活用しよう」のページがあり、デジタルコンテンツの一覧表示用の二次元コードが示されているとともに、全てのページに「Dマーク」と二次元コードが示されている。このように豊富でさまざまな種類のコンテンツを取り揃えていることにより、その日の授業の用途に適したコンテンツを多くの選択肢の中から選ぶことができ、的を絞った学習を実現させることができる。</p>
<p>教 図</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①重要語句を青色のゴシック体で表記している。</p> <p>②内容A～Cの第3章及び内容C第4章の冒頭を「技術のプラス面とマイナス面」という統一した見出しで始め、「生徒のつぶやき」を記載している。このことにより、世の中の技術の役割や技術が与える影響、社会におけるプラス面とマイナス面を考えさせることができる。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③ガイダンス「技術の問題解決ってなに？」において、「①立場によって見つかる問題が異なる」「②見方・考え方によって、プラス・マイナスが異なる」「③立場や見方・考え方によって、解決方法が異なる」という視点から技術の最適化に気づくよう記載がある。</p> <p>④各内容の第1章の末において、技術にこめられた工夫について調べる項目があり、具体的な例を挙げている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各内容とも、項目ごとに「めあて」を示し、関連するキーワードを記載している。</p> <p>⑥「やってみよう」のページに、ここまで学んできた内容について整理し、もう一度考えるワークシートを掲載している。このことにより、これまでの学習を踏まえ、技術の上手な活用法や新しく開発したい技術、これから技術とどのように向き合っていくものかを考えさせることができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦巻頭に「ガイダンス」があり、各内容をA編「材料と加工の技術」B編「生物育成の技術」C編「エネルギー変換の技術」D編「情報の技術」とし、A編からC編は1章から3章、D編は1章から4章で構成され、E編として「夢をかなえる技術」が掲載してある。また、各内容での用具の使用方法や作業方法について「スキルアシスト」という別冊がある。</p> <p>⑧各内容とも「実習（や見学）の安全な進め方を知ろう」で安全についての記述があるとともに、「プチ問題解決にチャレンジ！」で簡単に</p>

	<p>できる問題解決の例を挙げ、さらに「身近な問題を解決してみよう」で問題解決の具体的な方法について、実習例を示している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨SDGsに関係する内容には、関連する持続可能な開発目標のマークを示している。</p> <p>⑩デジタルコンテンツがある内容については、右下ページに二次元コードの表示がある。</p>
開隆堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①基本的な重要語句をゴシック体で表している。</p> <p>②内容A～Dの3で各内容における学習を振り返らせたり、技術と社会とのつながりを考えさせたりするための記述や図等を掲載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③④各内容の第1章の末において、「技術の見方・考え方で既存の製品を読み解こう」という学習課題があり、具体的な例を挙げている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各内容とも、項目ごとに「学習の目標」と「学習課題」を示している。</p> <p>⑥「命を守る防災、医療・介護の技術」「技術により問題の解決を考えよう」において、事実や具体例を記述している。このことにより、いま社会の中で使われている技術、また社会が抱える問題とそれを解決しようとする新しい技術があるということに気付かせることができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦巻頭にG「ガイダンス」があり、各内容をA「材料と加工の技術」B「生物育成の技術」C「エネルギー変換の技術」D「情報の技術」とし、各編とも1から3で構成され、中学校の3年間の問題解決の振り返りや統合実習として最後に「技術分野の出口」がある。</p> <p>⑧各内容とも実習例を挙げ、その実習例でも「問題の発見、課題設定→設計・製作（制作）→評価・改善」といった問題解決の進め方を記述しているとともに、実習例によって個別に必要な手順が具体的に写真等を示している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各内容のはじめに「小学校や他教科とのつながり」として、関連する学習内容が示してある。また、他教科や小学校での学習とのかかわりがあるところに「他教科」「小学校」マークを示し、ほかの学習項目や家庭分野とのかかわりがあるところをマークで示している。このことにより、「小学校」「他教科」等いろいろな分野と関連をもたせな</p>

がら学習を進めることができるため、振り返って違う角度から物を見たりすることができ、学習をより深めることができる。

⑩目次ページに、デジタルコンテンツの一覧を表示するための二次元コードがあるとともに、ほぼ全てのページにある二次元コードにより、関連のデジタルコンテンツを表示できる。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	技術・家庭（家庭分野）
-----	-------------

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「実習を楽しく安全に進めよう」を巻頭に掲載し、食物アレルギーや感染症予防にも気を付けて、安全に実習に取り組むためのポイントをまとめている。</p> <p>②日常食の調理における調理実習例や、衣食住の生活における布を用いた物の製作例がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③編の導入には課題設定の記入欄を設け、自分の知りたいことやできるようになりたいことを記入することで、生活の課題と実践へとつなげている。</p> <p>④「生活の課題と実践の進め方」を掲載し「1 課題を決めよう 2 計画を立てよう 3 家庭や地域で実践しよう 4 評価しよう 5 改善しよう 6 次の課題に挑戦しよう」というように学習の流れを示している。このことにより「課題を実践し、評価改善し、表現する」という学習の流れを生徒に意識付け、ゴールを見据えた学習を実現することができる。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤「生活に生かそう」が学習のまとめの中にある。このことにより、授業で学習したことをもとに、自分の生活を見直し、自分の家庭生活をよりよくする方法を記述できるため、家庭分野の問題解決的な学習である「生活に始まって生活に返す」ことができる。</p> <p>⑥「生活の営みに係る見方・考え方」を「家庭分野のガイダンス」において、マークやイラストを用いて説明しているので、考えを整理しやすい。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦「生活に生かそう」が題材ごとであり、生徒が実践しやすい、具体的な内容を示している。</p> <p>⑧中学校の他教科等の学習内容との関連については「リンク」マークを示し、教科名、単元・題材概要を示している。技術分野の学習内容との関連については「リンク」マークを示し、題材概要を示している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨教育漢字以外の漢字には全て丸ゴシック体で振り仮名を付している。</p>

	<p>⑩授業で使用できるワークシートや思考ツール、基礎機能や幼児に関わる動画など、豊富でさまざまな種類のコンテンツを取り揃えている。このことにより、用途に適したコンテンツを多くの選択肢の中から選ぶことができ、的を絞った学習が実現できる。</p>
<p>教 図</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「実習は安全に取り組もう」を巻頭に掲載している。このことにより、「けがや衛生面に気をつける」という基礎的基本的な知識及び技能の習得を、強く印象付け、実践につなげることができる。</p> <p>②日常食の調理における調理実習例や、衣食住の生活における布を用いた物の製作例がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③節の導入には自分の生活を見つめるきっかけとなるコーナーを設定している。</p> <p>④「生活の課題と実践」の学習の流れを「1問題を発見する2課題を設定する3計画・実践する4評価する5改善する6次の課題へ」のように掲載し、学習の流れを示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤「ふり返る」でそのページの知識・技能が身に付いたか生徒が自己評価する欄を設定している。</p> <p>⑥「ガイダンス【つなぐ・つながる】×家庭分野」において、生活の営みに係る見方・考え方を「つながり」というキーワードを用いて説明している。このことにより、人と人、私たちと生活、伝統、生活と環境（SDGs）などを意識した上で、家庭科を学び始めることができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦「学びをいかそう」が題材ごとにあり、生徒が実践しやすい、具体的な内容を示している。</p> <p>⑧中学校の他教科等の学習内容や技術分野との関連については「関連」マークを示し、教科名、分野、単元・題材概要を示している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨中学校以降で学習する漢字には、見開きの初出で振り仮名を付している。</p> <p>⑩調理実習動画や制作動画などのデジタルコンテンツがあり、二次元コードを読み込むと学習に関わりのある参考動画や資料などを見ることができる。また、オリジナルワークやワークシートがあり、主体的な学習につながる。</p>

開隆堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「楽しく安全に実習しよう」を巻頭に掲載し、実習前、実習中、実習後のそれぞれのポイントをまとめている。</p> <p>②日常食の調理における調理実習例や、衣食住の生活における布を用いた物の製作例がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③編の導入には生徒の身近な話題を用いている。</p> <p>④「生活の課題と実践の進め方」を「1生活を見つめ、課題発見・課題設定2計画3実行・実践4まとめ・発表5ふり返り・評価6生活にかす・次の課題へ」のように掲載し、学習の流れを示している。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」という生活の中の具体的なできごとから課題を考える活動を設定している。このことにより、学習した内容を家庭や地域で実践することにつながるができる。</p> <p>⑥家庭分野の「ガイダンス」において、生活の見方・考え方の視点を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦「やってみよう」のマークで基本的な内容の理解を深めたり、応用したりするための課題を提示しており、生徒が実践しやすい、具体的な内容を示している。</p> <p>⑧中学校の他教科等の学習内容や技術分野との関連については「他教科・他分野との関連マーク」を右ページ上部に示し、教科、分野、単元、題材概要を示している。このことにより、教科横断的な学習につながやすくなっている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨中学校以降で学習する漢字には、見開きページごとの初出箇所に振り仮名を付している。</p> <p>⑩学びを広げ、深めるための資料コンテンツと、基礎技能、調理・製作実習の手順などを示す動画コンテンツを豊富に掲載している。</p>
-----	---

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	英 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①目次に單元ごとの活動目標と文法事項が見開きで提示している。各単元の冒頭にも目次と同じ Goal と單元末での活動内容を示している。</p> <p>②Unit 1、2では Practice としてペアで伝え合う活動、Read and Think 1、2では Reading と Writing の活動ができるようになっている。学期に一度学習した領域と技能を活用した Stage Activity がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③單元冒頭に、Read and Think の本文に関する内容について、自分の考えや気持ちを伝える活動がある。</p> <p>④各学期末にある Stage Activity は、聞きとった情報をもとに考え、「書く」「話す（発表）」活動につなげる構成となっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤単元を貫く問い Unit Question を單元名として設定し示している。ゴールの活動（Unit Activity）に向けて、各パートの Activity をスモールステップで積み上げられるように工夫している。</p> <p>⑥單元冒頭に GOAL が示されており、その單元での目標が明確である。單元末に話す活動や書く活動の Unit Activity があり、最後に CHECK でその GOAL に対して生徒自身が振り返りを行うことができるようになっている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦單元冒頭に、Preview として聞く活動、Part 1、2、Read and Think 1、2で、本文内容の概要把握と Round Reading で読む活動を設定している。單元末に Unit Activity、ステージ末に Stage Activity があり、それぞれの活動を統合する構成になっている。</p> <p>⑧巻末の Word List に小学校で学習した単語に印がある。教科書には「小学校の単語」として表記してある。Unit 0～Unit 4までが小学校で学んだ英語を整理するための Stage 1 として扱われている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨二次元コードを設置し、学習に役立つウェブアプリや資料、動画やクイズ、音声など、多岐にわたるコンテンツを用意している。巻末に「資料編」と「巻末付録」を掲載している。</p> <p>⑩巻末口絵「学習を振り返ろう－CAN-DO リスト」に領域別学習到達目標を設定している。領域別及び Stage ごとに目標についての振り返り</p>



	<p>を4段階で設定している。学年ごとに3年間の目標が一覧になっている。</p>
<p>開隆堂</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各単元の冒頭で各ページに対しての Goal を提示している。</p> <p>②PROGRAM では Listen から始まりその後 Speak&amp;Write の活動がある。Part 1 Part 2 (Listen &amp; Read) では基礎・基本的な内容を学習する構成となっている。単元の終末では、Retelling 活動や目的・場面・状況を意識し、既習事項を活用して活動する言語活動を設定している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③単元の Scenes に、既習の文法事項を用いて自分のことを伝えたり、相手に質問したりする Speak &amp; Write の活動がある。Our Project は Goal が具体的であり、モデル文の提示、マッピングを活用した思考の整理等、スモールステップで英文を完成するための工夫が見られる。</p> <p>④Program の最後に本文で読んだ内容をリテリングして話す活動や、その単元のテーマに関する英文を読んで、紹介文や自分の考えを書いたり話したりする、領域を統合した活動が行えるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤新出表現の導入を漫画形式で掲示しており、新出表現がどのような目的・場面・状況で使われるのかを視覚的に容易に理解できる。各単元の Part に入る前の Tuning in では、本文のテーマについて話し合う活動や会話を聞き内容を確認する活動を設定している。</p> <p>⑥各単元の学習内容は、単元後半の Review &amp; Retell で振り返り、Action で自分の考えを伝えられるようにしている。巻末の CAN-DO リストで各学年での5領域の目標を示しており、単元ごと、文法事項ごとに3段階で振り返ることができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦Scenes で「聞く」「やり取り」「書く」活動をする。単元末に Action で「やり取り」の活動がある。ステージ末に Our Project (統合問題) がある。</p> <p>⑧巻末の Word List に小学校で学習した単語に印がある。教科書では「小学校で学んだ単語」として表記している。新出事項を扱う単元に入る前に、小学校でできるようになったことを確認できるページがある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨二次元コードを設置し、学習に役立つ本文や語句の音声、題材導入動画や文法解説アニメーション、発表モデルや単語アプリなど、多岐にわたるコンテンツを用意している。巻末に「Word Web」と「巻末資料」を掲載している。</p>

	<p>⑩巻末資料「CAN-DO」リストに領域別学習到達目標を設定している。各単元に設定した「できること」について、領域別の振り返りを3段階で設定している。巻末資料（1年生）にアクションカード（切り取り）がある。</p>
三省堂	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①目次に Lesson ごとの Goal Activity（活動の内容）を提示している。各単元の冒頭で目次と同じ「Goal Activity」を提示している。</p> <p>②各 Part に、文法事項等を領域ごとに活用して身に付ける言語活動として Exercise を設定している。各単元の終末に、Goal Activity として Read、Write の活動がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③各 Lesson の Part 3 の Small Talk Plus では、本文の内容と関連する話題で会話をする活動がある。Tips では会話を広げるヒントを、例文を交えて紹介している。</p> <p>④各 Lesson の最後の Goal Activity では「読む」から「書く」につなげる活動がある。各学期末に Project があり「読む・聞く」から「書く・話す（発表）」につなげる領域を統合した活動がある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤単元の冒頭に、単元の内容に関連する写真・イラストを充実して掲載している。それらを活用し英語で簡単なやり取りをする導入となっている。単元のそれぞれの Part の始まりに Small Talk で生徒同士が英語でやり取りをする活動を設定している。Scene 1 では登場人物の会話を聞き、興味をもたせる工夫がある。</p> <p>⑥各単元の冒頭に Goal Activity を提示しており、単元末にどんな英文を読むのが明確である。Take Action では、それまでの学習内容を活用した言語活動ができるようになっている。3単元ごとに Project があり、既習事項を振り返り、表現できるようになっている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦各冒頭に、Lesson Preview として聞く活動がある。単元末に、Goal Activity として「発表」「やり取り」「書く」活動がある。Take Action で各言語活動を設定している。</p> <p>⑧1年生の冒頭に小学校で学んだ単語や表現をまとめて紹介している。巻末の Word List に小学校で学習した単語に印がある。新出事項を学ぶ PROGRAM に入る前に、小学校で学習したことを確認できるページがある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨二次元コードを設置し、学習に役立つ資料動画や本文アニメーション、文法の解説動画や発音チェックなど、多岐にわたるコンテンツがある。巻末にある「資料」では、まとまった英文（Further</p>

	<p>Listening)、復習用のリスニング原稿(Audio Scripts)、語彙等を掲載している。</p> <p>⑩資料「What Can I Do? 英語の学習に Can-Do リストを活用しよう」に領域別学習到達目標を設定している。当該学年でできるようになったことについて、領域別の振り返りを4段階で設定している。</p>
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各単元の冒頭に内容理解と活動の2点で目標を提示している。単元終了時の活動である Task では、目標をどれくらい達成できたか振り返ることができる。</p> <p>②Lesson では、Part 1 ~Part 3、Tool Kit、Let's Listen、Think &amp; Try を設定して各領域を扱っている。単元終末にある Task では、Grammar の解説、Tip for Speaking、Reading、Listening、Writing があり、それぞれの領域を扱っている。学期に1回の割合で Project と題して既習事項のパフォーマンス課題を設定している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③Lesson の各 Part の Think &amp; Try では、本文の内容について自分の考えや気持ちなどを入れてやり取りができる活動がある。単元末の Task では、設定された場面の中で既習の文法事項を用いて相手に質問したり、自分のことを伝えたりする活動を行うことができる。</p> <p>④学期に1回ある Project では、モデル文を聞きそれをもとに「書く」活動を、最後は「話す(発表)」活動へつなげる流れとなっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各単元の冒頭に、その単元に関する話題についての質問を聞いて話す活動につなげる英文がある。Goal として単元の目標を内容理解と活動の2項目で示している。</p> <p>⑥各単元の最後に Task と Grammar が設定してあり、それまでの学習内容を振り返ることができる。単元冒頭にある Goal について4段階で自己評価し振り返ることができる。3単元ごとに Project を設定し、既習事項を振り返り、表現できるよう設定している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦単元冒頭に、単元の Goal に関連した Listening がある。Part 1 ~ 3での活動の後、Task として「読む」、「話す(発表、やり取り)」や「書く」活動がある。さらに、単元の最後に Activity Plus や Tips があり、発展的な Speaking や Reading 活動を設定している。</p> <p>⑧小学校で学んだ単語を紹介している。巻末の Word List では小学校で学習した単語に印がある。小学校で学習した活動にもう一度取り組むことができるページが、新出事項を扱う単元の前にある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨二次元コードを設置し、「まなびリンク」にアクセスできる機能や英</p>

	<p>文・語句の音声、学習シートややり取り見本動画、録音・再生機能など、多岐にわたるコンテンツを用意している。巻末に「巻末資料」と「付録」を掲載している。</p> <p>⑩巻末資料「Can-Do 自己チェックリスト」に領域別学習到達目標があり、領域別の振り返りを4段階で設定している。</p>
光 村	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①目次に各単元の目標とその目標を達成するための言語活動のマークを提示している。各単元のとびらに各言語活動に対する Goal を示している。</p> <p>②各単元で見開き1ページの中で各活動ができるように設定している。 (Listen &amp; Read → Listen → Speak → Write) 各 Part が終わった後に、既習事項を活用して単元の目標を達成できたか図る、Goal のページがある。学期に1回の割合で既習事項の総復習を行っている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③単元の各 part に学習した文法事項を用いて、自分のことを表現したり相手に質問したりするやり取りの活動がある。</p> <p>④学期末に You Can Do It という単元があり「読む」から「書く」につながる活動や、「聞く・見る」から「話す（メモや箇条書き程度の文を見て）」につながる活動がある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各単元のとびらの中で、その単元はおけるコミュニケーションの目的・場面・状況を登場人物がイラストと台詞で示しており、聞く活動でその単元のおおまかな内容を考えることができる。また、About You として本文に関する質問について話す活動がある。</p> <p>⑥各単元末の Goal 振り返りにおいて、2項目について振り返りを設定したり、You Can Do It !の Goal 学期の振り返りにおいて、4段階の振り返りを設定している。また、巻末の CAN-DO List で領域別の到達目標を示し、学期ごとに自己評価することができる。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦単元冒頭に本文内容に関わったやり取りをする活動が設定されている。Part 1～3の後、Goal として、話す活動や書く活動がある。</p> <p>⑧小学校で学んだ単語が紹介されている。巻末の Word List に小学校で学習した単語に印がある。小学校で習った語の前に桜のマークがあり分かりやすい。新出事項を扱う単元に入る前に小学校での既習事項に関する活動がある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨二次元コードを設置し、学習に役立つ音声、動画、理解度確かめるピクチャーカード、即興的に話す活動を支える動画、発展的なリーディング教材など、多岐にわたるコンテンツを用意している。巻末に</p>

	<p>「帯活動」と「巻末付録」を掲載している。</p> <p>⑩巻末資料「CAN-DO List」に領域別学習到達目標を設定している。領域別の振り返りを「You Can Do It!」ごとに4段階、当該学年の自己評価を4段階で設定している。</p>
啓林館	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①Project や Let's シリーズの紙面上に目標を提示している。单元ごとに Goal を Input と Output の2本柱で示している。</p> <p>②各 Unit の目標に基づき Read / Listen &amp; Think または Think &amp; Speak / Write を設定している。技能統合型の言語活動 Project を第1・第2学年では年間3回、第3学年では年間2回設定している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③単元の各 part に Express Yourself があり、その part で学習した文法事項を用いて自分のことを表現したり、相手に質問したりするやり取りの活動を行うことができる。</p> <p>④単元末に Think &amp; Write や Think and Speak という「聞く」から「書く」、「書く」から「話す」につなげる領域を統合した活動がある。Project では「読んで書く」、「聞く・読む」から「書く」につながり、最後は「話す（発表）」につながる活動がある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤各単元の冒頭で目的・場面・状況を見ながら聞く活動を行うことができる。即興的なやり取りの活動として、Unit の各 Part に Enjoy Chatting が設定されている。Chatting では、Part の本文内容に関連する問いが1問提示されている。</p> <p>⑥各単元の冒頭に Unit Goal として、Input と Output の2項目について、その単元の目標を提示している。また単元末の Check で Unit Goal について4段階で自己評価し、振り返りができるようになっている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦単元冒頭に聞く活動がある。単元の後半には Read and Think として Reading 活動、Think and Speak では、Speaking 活動がある。Project 1～3には統合した活動が設定してある。</p> <p>⑧小学校で学んだ単語を紹介している。巻末の Word List に小学校で学習した単語には印がある。新出事項を扱う単元に入る前に、小学校での既習事項を使う活動がある。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨二次元コードを設置し、学習に役立つ本文や進出語句、リスニング音声 や本文アニメーション映像、文法解説動画など、多岐にわたるコン</p>

	<p>テンツを用意している。巻末に「巻末付録」と「付録」を掲載している。</p> <p>⑩巻末付録「CAN·DO List」に領域別学習到達目標を設定している。当該学年の学習到達目標についての振り返りを4段階で設定している。</p>
--	--

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	特別の教科 道徳
-----	----------

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「道徳科の時間はこんな時間に」のページに「①気づく」「②考える」「③深める・広げる」など、道徳科での学び方を提示している。</p> <p>②教材文の終わり「考えよう」「みつめよう」のコーナーを設け、マークとともに発問を記載している。また、「考えよう」「深めよう」の発問により、さらに思考を深めるための発問も記載されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③巻頭「道徳の授業はこんな時間に」の中に、話し合う学習活動、話合いのポイントを示すとともに、教材文の終わり「Plus」に、直前の教材に関する話合いの具体的な流れを示している。</p> <p>④学びの途中で思ったこと、考えたこと等について、書く欄を設けるとともに、巻末に、授業の取組や心に残った教材を記入するページを設けている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに探究の対話「p4c」や「対話の流れ」等を記載するなど学習過程を示している。</p> <p>⑥「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、体験的な学習に関連する学習過程の例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦各学年とも35教材。「福祉・ボランティア」「人権・いじめ」「国際理解」「キャリア教育」「自然・環境」「健康・安全・防災」のテーマで教材を振り返ることができる。</p> <p>⑧付録に「SDGs」と関連する教材があるとともに、いじめの問題をテーマとした、3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」を設けており、生徒にとってじっくり考えやすいものになっている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに、掲載している全ての教材名を示している。また、各学年「自分の学びを振り返ろう」として、切り取り式の自己評価用紙を毎学期分設けている。</p>

	<p>⑩「朗読音声」「ワークシート」「Web サイト」「資料」「VR 映像」「心情円」「映像」「他教科リンク」などのマークを設定し、二次元コードとともに示しており、生徒にとって興味関心が高まる工夫がある。</p>
<p>教 出</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「さあ、道徳を始めよう！『どうやって学ぶの？』」のページに、「問題に気づく」「考え、話し合う」「深める」「つなぐ」という学習流れをイラストや吹き出しとともに示している。</p> <p>②冒頭教材文の下に「集団や社会との関わりについて考える教材」を表す青色のマークとともに記載したり、「学びの道しるべ」のコーナーに道徳的諸価値に迫るための発問を掲載したりするなどの工夫がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③巻頭「さあ、道徳を始めよう！」の中に、話し合う学習活動、話合いのポイントを示したり、教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、教材における話合いを促したりする発問を示している。</p> <p>④巻末に、心に残った教材や一番考えさせられた教材等を記入するページを設けている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、問題解決的な学習過程の例を示している。</p> <p>⑥「やってみよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例を示すことで、日常生活や社会との関連から自分の生き方を考えさせるような学習展開となるような工夫がある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦各学年とも35教材。「生命の尊さ」「いじめ・人権」「情報モラル」「自然・環境」「安全・防災」「伝統・文化」「キャリア教育・社会参画」の7のテーマに分類している。</p> <p>⑧「いじめをなくそう」、「つながり合って生きる」、「命を輝かせる」をユニットとして掲載している。またいじめの問題をテーマとした2つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめをなくそう」を設けている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各学年の目次には、4つの視点で分けた教材番号と学習するまとまりを色付けするとともに、「教科書に出てくるマーク」等を示してい</p>



	<p>る。また切り取り式で学びの振り返りの記述欄を各学期分、1年間の振り返りを1回分設けている。</p> <p>⑩「道徳科の学びをもっと広げよう」等に、教材とSDGsとの関係を示したり、目次、教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示したりして内容理解を促す工夫をしている。</p>
光 村	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「本書で学ぶ皆さんへ」に、手引きを「①考えよう」「②見方を変えて」「③つなげよう」の3つで示している。</p> <p>②教材文の終わり「考えよう」のコーナーに、道徳的諸価値に迫るための主たる発問が記載されている。また、「見方を変えて」「つなげよう」のコーナーにさらに深めるための発問を記載している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③第1教材「道徳の学習を始めよう！」の中に、話し合う学習活動、話合いのポイントを示したり、教材文の終わりに、教材における話合いを促したりする発問を示している。</p> <p>④巻末折り込みに、心に残ったことや1年間の学習の振り返り等を記入するページを設けている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤教材の終わりに、学習過程の例を示している。</p> <p>⑥「チャレンジ」を設け、目次及び該当ページにマークを付け、教材の終わりにテーマに迫る学習過程の例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦各学年とも35教材。「いじめを許さないために」「食育・健康・防災」「キャリア」「法律・消費者」「福祉・共生」「伝統文化・国際理解」「社会参画」7のテーマに分類している。</p> <p>⑧「『いじめ』を許さない心について考える」、「『情報モラル』について考える」をユニット化して、目次に示している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各学年の目次には、掲載している全ての教材名等を示している。また、学習するまとまりに下線を引くとともに、「教材の冒頭についている印」等を示している。さらに、各学年、切り取り式の「まなびの記録」を折り込みで設けている。</p> <p>⑩「やってみよう」「チャレンジ」「まなびをプラス」「コラム」「まなびの準備」のマークを設定している。また、二次元コードにより「動画」「朗読」「資料」等のデジタルコンテンツを示している。</p>
日 文	<b>第1の観点</b>

①見開き2ページに、主題や教材、発問と学習の流れ等を「①気づく」「②考える・議論する・深める」「③見つめる・生かす」の3つでイラストや吹き出し等とともに示している。

②教材文の終わり「考えてみよう」、「自分にプラスワン+1」のコーナーを設け、マークとともに発問を記載している。また、教材文に続く見開きページ「学びを深めよう」に発問を記載している。  
このように学びの流れが分かりやすく、1時間の見通しがもてるように工夫している。

### 第2の観点

③教材文の「学びを深めよう」に、話し合う学習活動、話合いのポイントや工夫例を示すとともに、別冊「道徳ノート」の中に、話合いの内容等を記述できる欄を設けている。

④別冊「道徳ノート」に、自分の考えや友達の意見等を書く欄を設けるとともに、巻末のページに心に残っている授業や考えたこと等を記入するページを設けている。

### 第3の観点

⑤「学びを深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例を示している。

⑥「学びを深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、体験的な学習に関連する学習過程の例を示している。

### 第4の観点

⑦各学年とも35教材。「いじめ」「情報社会」「自立と共生」「環境と未来」「安全な生活」のテーマを設定している。

⑧いじめの問題をテーマとした2つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめと向き合う」を設けるとともに「いじめと向き合う」マークを使い、目次に色付けして複数示している。

### 第5の観点

⑨各学年の目次には、掲載している全ての教材名等を示している。また「道徳科での学びを始めよう！」を示すとともに、別冊「道徳ノート」に「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」の欄を設けている。

⑩目次、該当ページに「あすへのメッセージ」「視野を広げて」のマークを設定し、コラムのページとして示している。また、教材名の下や別冊「道徳ノート」に、デジタルコンテンツにつながる二次元コードを示している等、生徒の興味関心を高める工夫がみられる。

<p style="text-align: center;">学 研</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①「さまざまなテーマで学ぼう」のページに、テーマをイラストや写真とともに示し、今気になっていること、夢中になっていることを書き込める枠を設けている。</p> <p>②教材文の終わりに「集団や社会との関わりについて考える教材」を表す青色の枠を表示し、「考えよう」のコーナーに道徳的諸価値に迫る発問を掲載するなどの工夫がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③巻頭「道徳科で学ぶこと考えること」の中に、考えを深める4つのステップとして話し合う学習活動、話し合いのポイントを示している。</p> <p>④教材文の下に、学びの途中で気付いたことや思ったこと等についてかく欄が設けている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤「深めよう」に、問題解決的な学習過程の例を示し、考えたことを自由に書き込めるような工夫がある。</p> <p>⑥「深めよう」の、学習過程の終末に、「生き方につなげよう」の表記があり自己を見つめられるような工夫がある。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦各学年とも35教材。「いのち」「キャリア」「多様性」「家庭連携」「環境」「情報モラル」「いじめ防止」「安全」「グローバル」「消費者教育」「伝統文化」「健康」「スポーツ」「法教育」のテーマに分類している。</p> <p>⑧「持続可能な世界のために」「色とりどりに輝く」「未来に向かって」をユニット化し、いじめ問題をテーマとした教材も年間を通して配している。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨目次の前に、先人の言葉を記載し、目次には教材を4つの視点の色分けとともに「教科書に使われるマーク」等を示している。また切り取り式で学期ごとに振り返る「学びの記録」、1時間毎の「学びの記録」欄を設けている。</p> <p>⑩目次、教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示したりして学びを促進する工夫がある。</p>
<p style="text-align: center;">あか図</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間で学ぶ内容項目をマークとともに示し、10個のテーマを教材名等とともに示している。</p>

	<p>②教材文の終わりに「主として集団や社会との関わりに関すること」を表す青色の吹き出しを設け、道徳的諸価値に迫るための発問を掲載したりするなどの工夫がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③巻頭「道徳科の時間は、『自分を見つめ、考え、生きる』時間」の中に、話し合う学習活動、話合いのポイントを示し、教材文の終わりの「いろいろな見方で考える」等に、教材における話合いを促す発問を示している。</p> <p>④巻末に、授業での取組や心に残った授業等を記入するページを設けている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤「マイ・プラス」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例を示している。</p> <p>⑥「マイ・プラス」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、体験的な学習に関連する学習過程の例を示している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦各学年とも35教材。「『いじめ』を考える」「共に生きる社会」「国際理解」「キャリア」「伝統・文化」「情報モラル」「生命の大切さ」「安全・防災」「自然・環境」「スポーツ」の10テーマを設定し、多面的・多角的に学べるようになっている。</p> <p>⑧「『いじめ』を考える」、「情報モラル」、「共に生きる社会」、「キャリア」のユニットに色付けで分類し、さらに、いじめの問題をテーマとした3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「『いじめ』を考える」を設けている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨各学年の目次には、掲載している全ての教材名等を、学習するまとまりごとに示している。また、切り取り式の振り返り用紙を設けている</p> <p>⑩目次、該当する教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示している。</p>
日 科	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①見開き2ページに、テーマを8個、教材名とともに示している。「クラスのみならず『道徳授業』を創り出そう」を授業始めに設定し、道徳を学習するガイダンスを行うようにしている。</p> <p>②教材文の終わりに「①考えよう、②深めよう」のコーナーを設け、道徳的諸価値に迫るための発問を掲載するなどの工夫がされている。</p>

## 第2の観点

- ③授業のテーマに沿った巻末の「ウェルビーイングカード」を使い、自分がいきいきと過ごすには何が必要かを考え、対話を深めるように工夫している。
- ④学びの途中で考えたことや教材の終わり等に記載されている発問等について、書く欄を設けている。

## 第3の観点

- ⑤教材文の終わりの「考えよう」「深めよう」に、学習過程の例を示している。
- ⑥巻末に自分自身が思いついた「ウェルビーイングカード」のキーワードを書くカード1枚を設けている。

## 第4の観点

- ⑦各学年とも34教材。「クラスのみならず『道徳授業』を創り出そう」のガイダンスが各学年とも1教材ある。
- ⑧巻頭の「さまざまなテーマから考えを深めよう」に、「いじめ・人権」をテーマとした教材を示している。

## 第5の観点

- ⑨各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマーク、この教科書にあるマーク等を示している。各学年「わたしたちの郷土」を3ページで示している。
- ⑩教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示したりして学びを促進する工夫がある。